

since 1954

# SEINAN CHANTEURS

70<sup>TH</sup> ANNIVERSARY  
45<sup>TH</sup> ANNUAL CONCERT  
2024



# 創立70周年記念

## 西南シャントウール 第45回定期演奏会

～ 新たな旅立ち ～

2024年11月9日(土) 14:00開演  
アクロス福岡シンフォニーホール

主催 / 西南学院グリークラブOB会  
共催 / 西南シャントウール・西南学院グリークラブOBシンガーズ・西南学院グリークラブ東京OB会・西南学院グリークラブ関西OB会  
後援 / 福岡市・(公財)福岡市文化芸術振興財団・西日本新聞社・福岡県合唱連盟・福岡音楽団体連絡会  
西南学院大学同窓会・西南学院大学学術文化会OB/OG連合会



西南学院グリークラブOB会  
西南シャントウール  
会長  
黒江 量二

本日は第45回定期演奏会にご来場下さいましてありがとうございます。  
おかげさまで、1954年に誕生しました西南シャントウールは満70才になりました。  
この間に賜りました皆さま方のお力添えに、団員一同心より感謝を申し上げます。  
記念演奏会であろうとなかろうと毎回挑戦する姿勢を忘れずに取り組んでまいりましたが、本年からは若手のOBとより融合を深めた定期演奏会を開催していくことにいたしました。  
地球上ではコロナ禍が収まりを見せる一方で戦争が長期化し世界中でストレスフルな状況が続いています。昨年『非戦』の思いを世界に発信し続けた音楽家・坂本龍一さんが亡くなりましたが、坂本さんは「人間が音楽を楽しむためにはどうしても平和が必要なのだ」と語っておられました。本日は、平和、愛、人生の応援歌をテーマに掲げ、アカペラとピアノ伴奏付きの男声合唱をお届けいたします。先輩、後輩の世代別にノスタルジーに浸れる名曲を選択いたしましたので、少々重たく感じられると存じますが、長い人生経験を積み重ねてきた今、再び出会った感動をお伝えさせていただきます。

ご承知の通り、西南出身の財津和夫さん率いるチューリップは1970年代にメジャーデビューを果たして以来、解散や再結成を繰り返しながらも50周年を迎えられ現在もアンコールツアーを開催しています。話題のステージでは、その代表曲の男声合唱バージョンを皆さまと一緒に楽しみ、西南の音楽人にエールを贈りたいと思います。土曜日の午後のひと時、「昭和のかほり」をお楽しみいただけましたら幸甚に存じます。

最後になりましたが、この演奏会のためにご尽力いただきました多くの皆さま方に厚く御礼申し上げます。



西南学院 院長  
西南学院大学 学長  
今井 尚生

西南シャントウールの創立70周年記念・第45回定期演奏会の開催おめでとうございます。

今年の定期演奏会は、長年西南シャントウールで歌う喜びを持ち続けて来られた皆様と、演奏会の開催を待ち望んで来られた皆様との記念すべき演奏会となりますこと、心よりお祝い申し上げます。

西南シャントウールは、グリークラブOBの有志が中心となり、歌への想いを胸に、1954(昭和29)年に結成されました。その母体であるグリークラブは、学院の創立から3年後の1919(大正8)年に、学内礼拝において賛美する十数人で創部され、現在も讃美歌を歌い継ぐクラブの一つとして、入学式や卒業式などの大学行事でも協力いただいております。特に入学して初めて讃美歌に触れる学生にとって、入学式でのグリークラブの歌声は、キリスト教主義学校である本学を体感する貴重な機会となっています。

さて、西南シャントウールのこれまでの歩みの中には、メンバーの転勤や業務多忙等により活動の継続が困難になった時期や、新型コロナウイルス感染症の流行により、長年続けてきた定期演奏会が延期されるなど、数々の苦難があったと伺っております。しかしながら、そのような中にあっても、歌うことへの熱意を絶やさず、学生時代の仲間と励ましあい、伝統を繋いでこられた皆様の熱意と行動力には、学長として心より敬服いたします。

創立70周年記念の演奏会は、「新たな旅立ち」と題され、福岡のみならず東京や大阪で活動されている若手OB合唱団と合同で開催されると伺っております。古希を迎えた西南シャントウールに若い力が加わり、新たなハーモニーをもって新時代を迎えられることは大変喜ばしいことです。また、チューリップ結成50周年を祝して、代表作の演奏がなされるのは、今回の見どころの一つです。

この演奏会に寄せる皆様の思いと熱意が、観客一人々に元気を与え、会場全体で楽しい時を過ごすことができますよう、心よりお祈りいたします。



西南学院大学同窓会  
会長  
岩崎 文正

### 団員を一人でもご紹介ください

#### シャントウール いま本当にオオゴトなんです

一年間、待ちに待った演奏会に足をお運びいただいた皆様方には、冒頭から「緊急事態宣言」のような見出しで、まことに申し訳ありません。私は昨年のご案内でも、同じことを書きましたが、実はシャントウールの母体であるグリークラブの現役学生がなんと、わずか5人。まさにシャントウール存続の「源泉」が、いまにも枯れ果てようとしているからです。

今年のシャントウール公演。実は見出しの悲愴感とは裏腹に、大変におめでたい年回りの記念の会なのです。グリークラブの誕生が1919年。そして、グリーの「オレが一番の歌い手タイ」と鼻息も荒いみなさんの手で、シャントウールが結成されたのが1954年。ちょうど70周年なのです。東京、関西のOB会が、総出でがっちりコーラスを固め、そして西南出身のチューリップ・財津和夫さんから、ヒット曲メドレーの演奏に快諾をいただいたのも、記念の会に賛同をいただいたからです。

70歳というのは人間に置き換えても、あちこちに不具合が出るものです。しかし、これほど明らかで確実に「消滅必至」を予感させる現状をいかに打開していくか。それは現役学生の参加をいかに着実に段階的に増やしていくか、これしかありません。本当に、危機的な「オオゴト」の瀬戸際なのです。

同窓会としても、学術文化会とも連動して大学のメイン行事である入学式、卒業式などの場でグリー、シャントウールの一層の活用を大学に要望したいと考えています。とくに入学式ではぜひもので採用いただけないかと願っています。

「校歌」「讃美歌」を会場に堂々と清らかに響き渡らせるのです。父兄も含め感激の渦が巻き起こるのは、間違いありません。「グリーがあるけん、西南タイ」と。

yell : Ah Seinan! 作詞/ Alma O'Norean Graves · 作曲/ 石丸 寛

## I. 世界のうた ~アカペラの煌き~

指揮: 井手敏彦

- Sailing, Sailing (Sea Shanty 編曲/ 福永陽一郎)
- Aura Lee (編曲/ R. Hunter, A. Parker and R. Shaw)
- Vive L'Amour (編曲/ A. Parker and R. Shaw)
- 草原情歌 (編曲/ 福永陽一郎)
- Soon Ah Will Be Done (編曲/ W. Dawson)

## II. 男声合唱曲『島よ』

作詩/ 伊藤海彦  
作曲/ 大中 恩  
編曲/ 福永陽一郎

指揮: 井手敏彦  
ピアノ: 植村和彦

—— 休憩 ——

## III. チューリップ50周年に乾杯! ~財津和夫コレクション

- 心の旅 (編曲/ 浅子勝也)
- 青春の影 (編曲/ 田中達也) < 編曲委嘱初演 >
- サボテンの花 (編曲/ 信長貴富)
- 切手のないおくりもの

作詞・作曲/ 財津和夫  
指揮: 高嶋裕二  
ピアノ: 植村和彦

## IV. 男声合唱組曲『水のいのち』

- 雨
- 水たまり
- 川
- 海
- 海よ

作詩/ 高野喜久雄  
作曲/ 高田三郎  
客演指揮: 久世安俊  
ピアノ: 植村和彦

## I. 世界のうた ~アカペラの煌き~

80歳代から30歳代までのメンバーが所属するOB合唱団、オープニングステージの選曲に指揮者はじめ技術委員の面々が頭を悩ませましたが、世代を超えて歌える歌ということで「融和」をキーワードにしました。

2020、2021年はコロナ禍で集まることも歌うこともできませんでした。おかげさまで、従来通り平和な世の中で音楽を楽しめるようになり幸せですが、2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻、2023年10月に始まったパレスチナ・イスラエル戦争は、未だ収束せず大国同士のせめぎ合いに発展しています。毎日ニュースで目にする惨状と”叫び”ともいえる人々の悲痛な声を聴くと、言葉が出ません。世界全体が抑止力と軍拡のジレンマから抜け出せずにはいますが、軍事力に依存しない新たなアプローチとして音楽がもたらす「融和」が提唱されることを願わずにはられません。

世界各地には美しい歌があります。おのが土地を愛し、人を愛し未来永劫この幸せが続くことを願っています。それぞれの地にかけがえのない愛する人がいることを想い、メンバーが永く愛唱してきた世界の歌から「愛」をテーマに5曲を選びました。

### •Sailing, Sailing (Sea Shanty)

古くから世界の七つの海に雄飛していたイギリスに多く生まれ、特に帆船時代の水夫の歌として広く歌われてきた海の労働歌 Sea Shantyの名曲です。船出を待ちわびている男(水夫)たちの熱いエネルギーを感じる歌です。

### •Aura Lee (アメリカ民謡)

史上最悪の南北戦争が始まった1861年頃のアメリカ。故郷に彼女を残して出兵していった多くの若い兵卒等によってこの『Aura Lee オーラ・リー』が広く歌われていきました。エルヴィス・プレスリーも『ラブミーテンダー』でカバーした名曲です。

### •Vive L'Amour (アメリカ民謡)

主に英語圏で歌われている男声合唱曲・学生歌。酒の席で乾杯前の景気づけで歌われる乾杯ソングとしても知られています。万歳や愛を意味するフランス語が用いられていますがフランスでは歌われていません。

### •草原情歌 (中国民謡)

1938年に王洛賓が新疆のカザフ族の民謡をもとに編曲・中国語作詞をして発表しました。いまでは「茉莉花」(ジャスミンの花)と共に中国を代表する民謡として世界中で知られています。

### •Soon Ah Will Be Done (スピリチュアル)

アフリカからアメリカへ連れられ過酷な労働を強いられた彼らの歌。黒人霊歌の中でもこの歌は、特に重苦しい雰囲気と胸に迫る激しい魂の叫びが織り込まれ、存在感のあるスピリチュアルソングとして歌い継がれています。

## II. 男声合唱曲『島よ』

1970年(昭和45年)度文化庁芸術祭参加作品として、ニッポン放送の委嘱により混声合唱版が作曲され、同年度の芸術祭優秀賞を獲得した。放送初演は、合唱=東京混声合唱団、ピアノ=三浦洋一で、大中自ら指揮をした。今回は福永陽一郎の編曲による男声合唱版で演奏する。

作曲者の大中恩は、混声合唱版の巻頭に、「人間の、特に私達「男」の宿命を全て担っているかのように見える"島"をうたいあげることが、むずかしいことではありましたが、たいへん書き甲斐のあることでもありました。男声合唱にみられるようなたくましさやねばっこさを、混声合唱の持つ中広さで一層厚いものにし、更にピアノの表現力を以って深く力強いものに仕立てました。」と述べている。また大中は「『島よ』は他の曲に比べていちばんスムーズに作業が進んだことを思い出します。(中略)伊藤さんの言おうとなさることばが、伊藤さんの中で煮詰められ掘り下げられて、生み出された一連は、読みつづけている或る日突然、私の創作への感動をゆさぶるような気がします。(中略)『島よ』に関しては珍しく早書きだったことは、伊藤さんとの共同作業としては忘れられない記憶です。」

この曲の舞台となった「島」がどの島であるかは明らかでなく、伊藤は大中との雑談の中で「あれは何かの雑誌で見た航空写真からの印象なんだよ」と語り、これに対し大中は「伊藤さんにあのような詩を書かせた写真も素晴らしかっただろうし、その詩が、どんなにか彼のイメージをふくらませてくれたかを思うと、イメージのふくらませ合いつて、ほんとうに素晴らしいことだと思うのです。」と述べている。

コンクールでもよく歌われる曲であるが、大中自身は「歌ってくださるのはありがたいんだけど、コンクールという競争の場でうたってもらうような作品ではないと思うんです。そういうふうには作品ができていないから、ぼくの作品をやった合唱団はあまりいい成績をとってなくて、申しわけないという気持ちです。」としている。一方、大中から楽譜と、大中が指揮をして録音したLPを贈られた福永は「作曲者というものは、自分の音楽をいかに知らないか。自分(福永)が指揮をしたらもっと素晴らしい音楽になる。」と書評に記し、実際1975年(昭和50年)の全日本合唱コンクール全国大会で法政大学アカデミー合唱団が福永の指揮で『島よ』を大中の意図と反する演奏をし1位金賞を受賞したとき、審査員だった大中は「法政のは優勝してつらかった。(笑)」としている。

単一楽章の曲であるが、全体は終止線により大きく6節に分けられる。各節をattaccaもしくは音楽的な"間"によって20分間緊張の切れ目なくドラマが展開される。また任意の節を抜粋しての演奏も多く見られる。

全曲を通じて最も特徴的に用いられる素材は「同音の連続」であり、合唱指揮者 相澤直人は「もっとも単純なモチーフをこれだけ彩り豊かに響かせられる楽譜を他に見たことがない」と評している。以下、相澤氏の解説による。

**第1節** 広大な海と空に見守られる孤島。「同音の連続」は冒頭の重厚なピアノのプロローグに始まる。

**第2節** 自由に泳ぎ、自由に羽ばたくことを夢見るが、それらは叶わず虚しさを噛み締める日々。「同音の連続」は躍動感ある前奏。

**第3節** 降りしきる雨に身を削られながらも耐える苛立ちと悲しみ。「同音の連続」はドラマチックな前奏。

**第4節** 空を赤くするほどのマグマを吹き、海をも

煮えたぎらせた猛々しき太古の記憶。「同音の連続」は常に息づく生命の鼓動。「葦、紫、薄墨色」でのC Durの美しさは特筆すべきものがあります。C Durという無色透明のキャンパスの上に、豊かに彩られる風景。C Durをまったく経過せずにこの場面まで至った計算、es mollという遠隔調からC Durに至った計算は見事です。」

**第5節** 「同音の連続」は木管アンサンブルを思わせる孤独なe mollの響き。

**第6節** この孤島の存在は私たち人間そのものではないのか、というひとつの問いかけ。これまでの各節の導入においてはすべてピアノパートで同音連打をすることによって音楽を特徴付け、引っ張り出す役割を担ってきたが、ここでは弦楽合奏を思わせる豊かな音楽が冒頭から溢れる。この伏線は、ピアノがラスト3小節で奏でるd moll主和音の切ない連打による終結部で回収される。ここにすべての"島"そして"人間"のドラマが凝縮され完成される。

「島よ」

伊藤海彦・詩

島よ  
碧い日々に とりまかれていっているものよ  
時の波に 洗われていっているものよ  
翼もなく 鱗もなく  
涯てしなさに うづくまるもの  
距てられ ただひとり 耐えているもの  
憧れと 虚しさ あまたの眼に  
みつめられているものよ

——島よ

☆  
まぶしさに 吹かれながら  
島は夢見る  
波の言葉に誘われて いつか  
漂うことを。

見すてられた沈黙  
その悲しみを断ちきって  
ある日 ふと 魚のように  
漂うことを。

——かすかに煙る 明日  
沖の彼方の 煙る明日

ああ だが  
どこに行けるといふのだから  
遠い昔からそうだったように  
島は さだめられたひとりを生かす

……なぜ なぜ なぜ  
その孤独から 空に向かつて  
問いかける 樹々の緑  
……なぜ なぜ なぜ  
白く泡だつ声をめぐらし  
島はひっそりと 重くなる  
忘れられた 果実のように

☆

降りしきる雨のなかで  
島よ  
おまえは傷ついたけもの  
はてしない 波だつ荒野の  
罫に落ちた 小さなけもの

枝をしなわせ 葉むらを打ち  
泥をこね 突き崩し 押し流す  
雨、雨、雨、……

ああ 空と海との  
まさりあうこの狂気  
とめどなく 島を噛み 島を裂く 暗い力  
そしてまた 島は失う  
数しれぬ 昼と夜  
そがれ けづられ  
いくたびも失いつづけたものを  
岩と土 夢と砂とを

雨は降り  
風まじり、雨はつのもり  
島は確かめる  
ひとときごとに失われる自分を

島は濡れ 島は沈む  
島であることの いらだち  
島でしかないことの 悲しみのなかに

☆

波の果て 陽が落ちるとき  
赫々と身を染めて  
島はおも  
遠い昔 炎だったことを  
熱く溶けた 叫びだったことを  
落日を身に浴びて  
島はきく  
わきたつ海の  
その底をゆるがすひびき  
島はきく  
忘れていた はるかな生命  
母なる岩漿の ひとつの声を

——ああ

溢れ こみあげ ほとばしる岩漿  
焼けただけ とび散る 溶岩  
灰と煙と にえたぎる海  
かけのぼり 走り 空をひきさき  
かぎりなく  
落ちて 落ちて 落ちつづける  
灼熱の雪崩……

……葦、紫、薄墨色  
空は変り 風はひそみ  
夜へ傾く時のなかで  
島はあたらしくなる  
呼びさまされた声を孕み

島は鮮やかに生きはじめ

☆

島は感じる  
ふかい夜のむこうから  
やってくるものの気配を  
長い旅から かえってくる風を  
たえずあの 青空の告げていたもの  
怖ろしいまでの優しさ  
ときあかせぬ 大気の微笑を  
島は感じる  
やってくるものの気配を  
見知らぬ一日が  
吐息のようにひろがるのを

☆

島よ  
のがれようもなく孤りているものよ  
心のなか 虚ろな海に  
浮かんでいるものよ  
日ごと夜ごと その身をそがれ  
なお遠い 火の刻印を守りつづけるものよ  
島よ  
おまえは 私ではないのか  
散り散りの、人という名の  
儚ない島——  
私ではないのか

——島よ

### Ⅲ. チューリップ50周年に乾杯! ～ 財津和夫コレクション ～

団塊の世代が話題になった2007年の定期演奏会では、オシャレな作・編曲家で人気の信長貴富氏に委嘱した「時代～ニューミュージックと 呼ばれた歌たち～」の本邦初演をしましたが、この曲には前年に亡くなった仲間の追悼も込められていました。

高校、大学と西南グリーの指揮者で活躍、KBC九州朝日放送に入社後は深夜のラジオ番組「歌え若者」の制作を担当、チューリップをはじめ、多くのミュージシャンを誕生させた岸川 均さんです。信長さんが選曲された6曲の中には、岸川さんと親交の深かった財津和夫さん作詞、作曲の「サボテンの花」もあり、ご縁を身近に感じながら失恋の想いを歌いました。

現在、チューリップは50周年ツアーアンコール公演を開催中ですが、そのヒット曲を演奏致しますので、あの頃の出来事を思い起こしていただけたら幸いです。

#### 「心の旅」

チューリップを代表する歌です。この歌のヒットがなければ今のチューリップはなかったと財津さんはテレビで語られていました。

“愛に終わりがあって、心の旅が始まる”と歌詞には、恋人や両親や住みなれた博多の街なみと別れることはさびしいことだけど、それ以上にこれからの夢にむかう旅への期待感やワクワク感が強く感じられます。

#### 「青春の影」

大きな夢を追いかけていた自分(男)が、君(女)を幸せにすることが自分の生きる道だと気づき、君と結婚する自分のことを“ただの男”になったという言葉で表現しています。財津さん曰く「『結婚』という現実を選択することでただの女、ただの男という小市民になる。それでもそれこそが大切なことだと気づいた男の気持ちを描いた」そうです。失恋の歌ではありません。淡々と語りかけるように歌われるとても美しい曲です。

本年度、編曲委嘱、初演作品です。

#### 「サボテンの花」

「サボテンの花」は1993年フジテレビ系月9ドラマとても人気だった『ひとつ屋根の下』の主題歌に使用され、シングル発売から18年経ってリバイバルヒットしました。これで知った方も多いかもかもしれません。

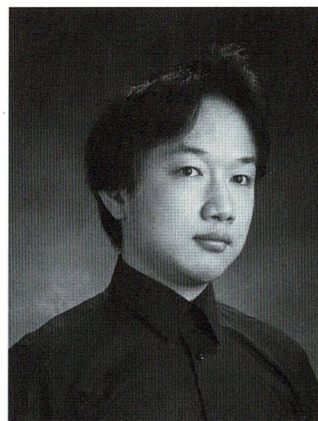
“編みかけていた手袋” “洗いかけの洗濯物” “シャボンの泡が揺れていた” “ドアに鍵をおろす” など歌詞の中には昭和50年頃の香りがいっぱいします。

でも“何かを見つけて生きていこう” “何かを信じて生きていこう”と歌詞にはいつの時代にも共感できるものがあります。

#### 「切手のないおくりもの」

財津和夫によって作詞作曲され、1977年にペギー葉山によって歌われました。そこで好評を博したので、NHKの「みんなのうた」で放送され、その後も2度取り上げられています。リメイクも含めると総売上が100万枚を超える大ヒットの曲で、素敵な詩と親しみやすいメロディなので学校でも取り上げられることも多く、よく知られています。本日は、この曲をご来場の皆さんと一緒に歌いたいと思いますので、どうか大きな声で歌ってください。

「財津和夫コレクション」のステージ企画に際し、「青春の影」の男声合唱版編曲を田中達也氏をお願いいたしました。、快くお引き受けいただき、本日初演を迎えました。感謝申し上げます。



作曲家 / 田中達也 Tatsuya Tanaka

1983年、東京都生まれ。東京学芸大学中等教育教員養成課程音楽専攻卒業、同大学院教育学研究科音楽教育専攻(音楽コース・作曲領域)修了。これまでに作曲を上田真樹、山内雅弘、金田潮児の各氏に、ピアノを椎野伸一、指揮法を伊藤栄一、山本訓久の各氏に師事。第15回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門(中田喜直賞の部)入選。第19回・35回朝日作曲賞佳作(合唱組曲)。第9回日本国際合唱作曲コンクール第1位。在学中より合唱作品を中心とする作曲活動を行い、オリジナル作品はカワイ出版、音楽之友社、パナムジカ、Edition ICOT、ウィンズスコアの各社より刊行されている。ポピュラー音楽の合唱編曲作品も数多く、これまでに100曲以上が出版された。2022年度の第89回NHK全国学校音楽コンクールでは中学校の部課題曲「Replay」の編曲者として制作に携わる。

### 切手のないおくりもの (1978)

作詞・作曲 財津和夫

私からあなたへ  
この歌をとどけよう  
広い世界にたった一人の  
わたしの好きなあなたへ

知りあえたあなたに  
この歌をとどけよう  
今後よろしくお願ひします  
名刺がわりにこの歌を

私からあなたへ  
この歌をとどけよう  
広い世界にたった一人の  
わたしの好きなあなたへ

年離れたあなたへ  
この歌をとどけよう  
心やさしく育ててくれた  
お礼がわりにこの歌を  
ラララ……

別れゆくあなたに  
この歌をとどけよう  
寂しいときに歌ってほしい  
遠い空からこの歌を  
ラララ……

わたしの好きなあなたへ  
ラララ……

日本音楽著作権協会(出)許諾  
第2407288-401号

### 財津和夫 Kazuo Zaitso

1948年2月19日生まれ、福岡県出身。  
1972年、東芝レコードより「魔法の黄色い靴」でデビュー。

3作目の「心の旅」(1973年)がオリコン・チャート第1位を獲得後、「青春の影」(1974年)、「虹とスニーカーの頃」(1979年)等のヒット作を発表。

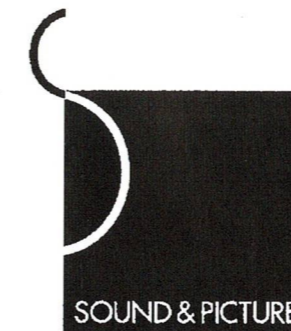
コンサート1000回を記念し、よみうりランドを1日貸し切って「TULIP LAND」と題した「1000th LIVE」(1982年)、芦ノ湖畔にシンボル・パゴダの塔を建てての野外コンサート「8.11パゴダ」(1984年)など、チューリップは現在のJ-POPアーティストの先駆けとなる大イベントを数多くこなす。

チューリップはアルバム34枚、シングル34枚を発表、1244本のコンサートを行い、1989年、18年間の歴史を閉じる。(尚、チューリップは1997年以降、期間限定で再結成し、全国ツアーを行なっている。)

チューリップの活動と並行して1978年からソロ活動をスタート。

「WAKE UP」(1980年)はセイコーのCFソングとなり大ヒット、1993年には「サボテンの花～ひとつ屋根の下より～」がフジテレビ系ドラマの主題歌となる。

作曲家として楽曲提供、アーティスト・プロデュース、ミュージカル音楽制作、俳優などとしても幅広く活躍している。



株式会社 音と映像

(旧社名:RKB 毎日ミュージックシステム)  
〒810-0074 福岡市中央区大手門3丁目11番23号  
Tel 092-771-1231 Fax 092-715-9206  
URL <http://www.oto-eizo.com>

## IV. 男声合唱組曲『水のいのち』

この〈水のいのち〉を、これらの楽章の配列から「水の一生」と考える人が多いようである。英訳すれば“ The Life of Water ”である。しかし私は、この題の本当の訳は「The Soul of Water」と思っている。〈中略〉そして、水の「魂・(Soul)」とは、低い方へ流れていく性質のことではなくて、反対に“水たまり”は“空を映そうとし”“川”は“空にこがれるいのち”なのであって、それはまた私たちの「いのち」でもあり、この組曲の主題でもあるのだ。(高田三郎著“来し方”より)

1964年(昭和39年)度文化庁芸術祭参加作品として、TBSの委嘱により作曲され同年度の芸術祭奨励賞を受賞した。1964年11月10日、日本合唱協会の演奏(指揮:山田和男、ピアノ:川村深雪)により初演された。

男声合唱版は1972年4月10日にクローバー・クラブの演奏(指揮:河原林昭良、ピアノ:横山恵津子)により初演された。作曲家の死後、イタリア語バージョン「L'Anima dell'acqua」、トーマス・マイヤー＝フィービッチによる管弦楽伴奏版、今井邦男による弦楽伴奏版なども生まれている。

### 第1曲〈雨〉

私たちが「降りしきれ 雨よ」と歌うのは、「これらすべて立ちすくみ、許しあい、また許し合えぬ人々の上に、恵みを」との願いを込めながら歌い始めるのである。そして、涸れた井戸も、踏まれた芝生も、事切れた梢も、踏み耐える根も、全てそのもの自体に返されることができるようにと。

### 第2曲〈水たまり〉

どこにでもあり、そして、やがて消え失せてゆく“水たまり”が「わたしたちに肖ている」と気づいた時、私たちは胸を突かれる思いを持つ。“水たまり”に過ぎない私たちの深さ。それは泥の深さでしかないかないし、私たちのちぎり(約束)も、それを受け入れるうなづきも、そして、まどい(団欒)もみな泥と泥の間のことではないのだ。しかし、その水たまりが青い空を、その小さい水面に映しているのに気づき「私たちの小さな心もまた」と思うのである。

### 第3曲〈川〉

太い旋律線が生き生きと流れていく。豊かな、そして透きとおった水をたたえた川のように。よどむ淵も渦もいら

だっているようだ。川がこがれているのは山であり、その切り立つ峰であり、その彼方の青い空なのだ。川底の石も水の流れて作用され上流へと転がりのぼり、魚も力強く水中をさかのぼっていく。それら、川上へ登ろうとするものをすべてみごもっている川がなんであるのかと尋ねることはもういらぬ。それは私自身なのだを繰り返して、この楽章は結ばれる。

### 第4曲〈海〉

ピアノの音とともに始まるハミングの大波小波は、終始私たちに「見なさい これを見なさい」と言い続けているようである。「人でさえ行けなくなれば、そなたを指してゆく。そなたの中のひとりの母を」と続く。

### 第5曲〈海よ〉

すべて受け容れる大きな海、うまず繰り返す無限の海。たえない始まりである海は、空の高みへの始まりなのだ。「のぼれ のぼりゆけ」と私たちが歌う時、のぼりゆく「水のががれ 水のいのち」が歌う人、きく人を包んでくれるであろうか。

<「来し方」高田三郎 著 より抜粋>

### 高田三郎 (1913年~2000年)

合唱界を代表する戦後日本の代表的作曲家の一人。若い頃はオーケストラの指揮者としても活躍し、作曲のジャンルも器楽曲が多かったが、50歳以降は合唱作品の作曲家として戦後の一時代を築いた。組曲『水のいのち』は、楽譜の重版数・発行数ともに日本の合唱曲中最多である。他にも「無声慟哭」「わたしの願い」「心の四季」等々、テキストの面でも音楽面でも多くの作品を書いている。また、日本のカトリック教会における作曲家として総数230曲もの「典礼聖歌」の作曲に後半生を捧げられたことは特筆すべきことである。

### 高野喜久雄 (1927~2006年)

新潟佐渡生まれ、戦後詩作をはじめ。1950年新潟の県立高校で教職につく。同人詩誌グループに参加。1957年詩集「独楽」1961年詩集「存在」を出版。他に「闇を闇として」や「出会うため」などがある。1982年には高野氏が円周率の新公式を見つけ、2002年の円周率最長計算世界記録の更新の際に主算公式として使用されるという数学者としての一面をもつ。

高田三郎の合唱作品には、高野喜久雄の詩によるものが非常に多く、重要な位置を占めている。「わたしの願い」「ひたすらな道」「内なる遠さ」「この地上」「確かなものを」。典礼聖歌としては、「呼ばれています」「父はいる」「イエズス・キリストへ」がある。

水のいのち

高野喜久雄 詩

### 2 水たまり

わたしの くぼみ  
そのの このの  
くぼみにたまる  
水たまり  
流れるすべも めあてもなく  
ただ

だまって

たまるほかはない

どこにでもある 水たまり

やがて

消え失せてゆく

水たまり

わたしたちに肖ている

水たまり

わたしたちの深さ

それは泥の深さ

わたしたちの言葉

それは泥の言葉

泥のちぎり

泥のうなづき

泥のまどい

だが

わたしたちにも

いのちはないか

空に向う

いのちはないか

あの水たまりの

空を うつそうとする

ささやかな

けれどもいちぢないのちはないのか

うつした空の

青さのように

澄もう と苦しむ  
小さなころ  
うつした空の

高さのままに  
在ろう と苦しむ  
小さなころ

3 川

何故 さかのぼれないか  
何故 低い方へゆくほかはないか

よどむ淵 くるめく渦のいらだち  
まこと 川は山にこがれ

きりたつ峰にこがれるいのち  
空の高みにこがれるいのち

山にこがれて 石をみごもり  
空にこがれて 魚をみごもり

さからう石は 山の形  
さかのぼる魚は 空を耐える

だが やはり 下へ下へと  
ゆくほかはない 川の流

おお 川は何か  
川は何かと問うことを止めよ

わたしたちもまた  
同じ石を 同じ魚を みごもるもの

川のががれを こがれ生きるもの

4 海

空をうつそうとして  
波一つなく 風ぐともある

岩と混じれなくて

ひねもす  
たけり狂うこともある

しかし  
凡ての川はみな

そなたをさして常に流れた  
底に沈むべきものは沈め

空にかえすべきものは  
空にかえした

5 海よ

ありとある 芥  
よこれ 疲れはてた水

受け容れて  
すべて 受け容れて

つねに あたらしくよみがえる  
海の 不可思議

休まない 汀  
波の指 白い指 くりかえし

うまず くりかえし  
億の砂 億の小石を  
数えつづける

海の 不可思議  
くらげは 海の月

ひとては 海の星  
海 海の馬 空にこがれ

あこや貝は 光を抱いている  
そして 深く暗い 海の底では

下から上へ  
まこと 下から上へ  
雪は 降りしきる

おお 海よ  
たえない 始まりよ

あふれるに みえて  
あふれる ことばなく

終るかに みえて  
終ることもなく

億年の わかしも いまも  
そなたは

いつも 始まりだ  
おお 空へ

空の高みへの 始まりなのだ  
のぼれ のぼりゆけ

そなた 水のががれ  
そなた 水のいのちよ

たとえ 己の重さに  
逆らいきれず

また ふたたび降るとしても  
雲となり

のぼれ のぼりゆけ  
みえない つばさ

いちぢない つばさ あるかぎり  
のぼれ のぼりゆけ

おお

おお

おお

本日は西南シャントゥール第45回定期演奏会にご来場いただき、心よりお礼を申し上げます。  
 昨年も書きましたが、シャントゥールとの音楽時間は私の営みに大きな「刺激」を与えてくれるものです。そんな有難い機会を今年もいただきましたことに感謝しております。

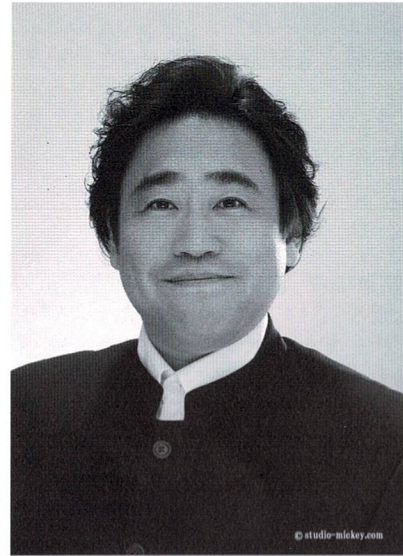
相変わらず「歌バカ」な先輩方との練習はいつも汗だくです。年齢差は変わるはずないのですが、間隔が縮まってきたのかな？！と思ってしまうほどの情熱に溢れています。

そんな熱量の先輩方と、今回は合唱曲の金字塔『水のいのち』をお届けいたします。誰もが知る名曲ゆえに、私にとって「試練」のステージになると覚悟しています。過去の演奏会でも2回（第25回、第37回）取り上げられています。このハードルをどう乗り越え、お客様にどれだけのヴィジョンをお見せできますか、身の引き締まる思いです。

諸行無常に流れる“水”、人を造り上げている“水”、普遍的であり、生きる糧であり、必要不可欠なものです。本日の出演者においては【水＝歌】と置き換えたほうが腑に落ちるでしょう。先輩方と造り上げた“シン『水のいのち』”をお届けできれば幸甚です。

今後とも、温かいご理解とご支援のほど、何卒よろしくごお願い申し上げます。

指揮者 久世安俊



客演指揮／久世安俊 KUSE Yasutoshi

福岡教育大学総合文化科学課程芸術コース音楽専攻卒業。同大学院修了。  
 北里由布子、三浦國彦、平和孝嗣、柴山昌宣の各氏に師事。  
 これまでに、オペラ〈フィガロの結婚〉、〈コシ・ファン・トゥッテ〉、〈愛の妙薬〉、〈秘密の結婚〉、〈ラ・ボエーム〉、〈カルメン〉、〈ヘンゼルとグレーテル〉、〈バスティアンとバスティエンヌ〉、〈カプレーティとモンテッキ〉等に出演。またパッサの受難曲やカンタータ、教会音楽のソリストを務める他、合唱指揮者としても活躍。  
 現在、近畿大学九州短期大学教授。（一社）西日本オペラ協会コンセル・ピエール理事長。RKB女声合唱団指揮者。福岡ユーゲンツァイト音楽監督。NCBコールアカデミア、メールクワイア筑紫、女声合唱団うめの実の指揮者も務める。福岡ソリストン会員。

西南シャントゥール創立70周年記念「第45回定期演奏会」のご開催、誠にありがとうございます。  
 この素晴らしい記念定期演奏会に参加させて頂きましたことに、心より感謝申し上げます。

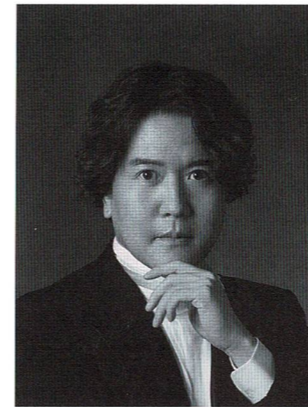
私は、2006年12月に開催された「第29回定期演奏会」において、シャントゥールの皆様と初めて共演する機会を頂きました。練習初日、団員の皆様がとても温かく迎え入れてくださったことは、今でも忘れられません。あれから18年、毎週の練習や演奏会を通じて、とても長い時間を一緒に過ごすことができました。いつも情熱的な歌声をシャワーのように浴び、私自身も大きな力を頂いてまいりました。男声合唱のために作曲・編曲された数々の魅力的な作品に出会い、アクロス福岡シンフォニーホール満員のお客様の前で14回演奏させて頂いたことはこの上ない幸せです。

また、西南学院グリークラブの現役学生の皆様と度々共演させて頂いたことも大きな喜びでした。OBの皆様が四年間という在学期限がある学生の皆様を、大きな愛をもって力強く支えておられるのを間近で見えてまいりましたが、先輩方の叱咤激励を力に変えて、意気揚々と合唱に取り組む現役学生の皆様との演奏も、毎回興奮を覚えるものでした。

長い歴史の中で受け継がれてきた伝統のもと、各年代の皆様方が力を結集して、客席とステージが一体となった演奏会を毎回目指される姿は大変頼もしく、私もいつも勇気を頂いております。

この19年間にシャントゥールの皆様から学んだ貴重な体験の恩返しができますよう、“新たな旅立ち”の朝を迎えられた皆様と一緒に男声合唱のファンづくりに取組んでまいります。

ピアニスト 植村和彦



ピアノ／植村和彦 UEMURA Kazuhiko

福岡教育大学教育学部中等教育教員養成課程音楽専攻卒業。  
 同大学院教育学研究科音楽教育専攻演奏学講座修了。  
 ピアノを片山由紀、倉員由紀子、福田ひろみ、福田伸光の各氏に師事。  
 第43回、第45回、第47回北九州芸術祭において伴奏賞受賞。  
 アンサンブルピアニストとして数多くの演奏会に出演し、多くの声楽家や管弦楽器奏者、合唱団と共演を重ねている。  
 西南シャントゥール、久留米音協合唱団、月いち合唱団ピアニスト。  
 西日本オペラ協会「コンセル・ピエール」ピアニスト。  
 九州産業大学人間科学部講師。

**祝 西南シャントゥール 第45回定期演奏会**  
 公演のご盛会をお祈り申し上げます  
 令和6年度 一般社団法人西日本オペラ協会コンセル・ピエール 公演  
 J.シュトラウスⅡ作曲 **とらもり**  
 オペレッタ  
 全三幕／日本語上演 日本語字幕スーパー付  
**2025年 2月14日 金 [18:30開演 / 17:45開場] 福岡シンフォニーホール (アクロス福岡)**  
 指揮：井崎正浩  
 演出：唐谷裕子  
 管弦楽：九州交響楽団  
 合唱：西日本オペラ協会合唱団  
 キャスト  
 アイゼンシュタイン…… 福嶋 勲 (客演)    ファルケ博士…… 久世安俊  
 ロザリンデ…… 松竹玲奈    アデーレ…… 林 麻耶  
 フランク…… 又吉秀和 (客演)    スリント博士…… 久保田敦志  
 オルロフスキー侯爵…… 瀬山ゆり歌    イーダ…… 柳瀬史子  
 アルフレード…… 江越正嘉    フロッシュ…… 石井宏明 (助演)

お問い合わせ 西日本オペラ協会事務局 ☎070-5272-2409 (担当: 上田)  
<https://www.nishiniponopera.jp/> 《西日本オペラ協会》公式ホームページ。公演のお知らせもあります。



練習ピアノ／山路麻佳 YAMAJI Asaka

福岡女学院高校音楽科卒業。福岡教育大学芸術課程音楽コース卒業、同大学院演奏学コース修了。ドイツ・ハンブルク国際音楽春期講習会修了。ピアノを片山由美、片山順子、中山由里、武内俊之、吉田真理の各氏に師事。  
 第47回北九州芸術祭全日空賞。これまでに九州新人演奏会、JR九州ななつ星で奏者を務める等、ソロ・伴奏・合唱ピアニストとして演奏活動を行っている。西南女学院大学短期大学部講師。九州産業大学ピアノ実技指導員。



フリーアナウンサー／中嶋順子 NAKASHIMA Junko

西南学院大学卒業後 ANA国際線CAを経て、結婚・出産後に TVの世界へ。ニュースアナウンサー、キャスター、TVリポーター、パーソナリティなどRKBのテレビとラジオで20年間活躍後、現在はDREAMS FM 「ハピネスワールド」水曜日担当、「モーニングチャージ765」月曜日担当、「ちくぎん地域経済VOICEレポート」パーソナリティの他、各種司会や講師、朗読、等を務めている。



指揮／高嶋裕二 TAKASHIMA Yuji

西南学院高等学校グリークラブに所属。  
1976年西南学院大学経済学部卒業。  
西南学院グリークラブ入部。2年間、学生指揮者を担当。  
卒業後は「混声合唱団トニカ」で4年間活動。  
2006年、西南シャントウール入団。  
2010年より西南シャントウール指揮者。



指揮／井手敏彦 IDE Toshihiko

西南学院大学経済学部1983年卒。大学2年次、副指揮者兼セカンドテナーのパートリーダーを務め、3年年次、アメリカ演奏旅行で正指揮者。  
卒業後は郷里、長崎県波佐見町、小学校教員。同時に地元の児童合唱団の指導、次いで男声合唱団「オールドダックス」、「波佐見混声合唱団」の3つの合唱団を現在も指導。  
「西南学院グリークラブOBシンガーズ」の前身「西南グリーOBメンバーズ'80～」から指揮。  
今後、OB合唱団の指導者として期待されている。

西南学院グリークラブOBシンガーズ・東京OB会・関西OB会

私たちは、2006年7月15日に開催された「ありがとうランキンチャペル」コンサートで、久しぶりに全国からそして海外からも集まり、歌ったことが大きなきっかけとなり、その後のOB会合唱団の結成に繋がっていきます。

福岡地区では、2010年の西南シャントウールの定期演奏会への出演を契機に、その後、継続して出演を重ねています。2023年には名称を西南学院グリークラブOBシンガーズと正式に決定いたしました。福岡県内その周辺の県からも集まり約50名が所属し、汀幼稚園で月2回練習を行っています。

西南学院グリークラブ東京OB会合唱団は、過去に幾度となく結成と休止を繰り返しましたが、2009年に西南学院グリークラブが創立90周年を機に、正式に創設されました。関東に在住する西南グリーの卒業生は、約90名前後(転勤や転宅等で人数は変動)、その1/3の約25~30名が合唱活動をしています。西南グリーOBが牧師を務める常盤台バプテスト教会などをお借りして練習しています。

西南学院グリークラブ関西OB会は、創立100周年で歌うことを目標に2018年11月に3名でスタートしました。その後、9名まで増えたメンバーで、月に2回、西南グリーOBが牧師を務めるシオンの丘教会(藤井寺市)で練習しています。

福岡、関西、東京では、同時に練習が出来ないという課題がありますが、福岡地区での練習の録音やビデオを、インターネット上を駆使して、それぞれの練習に活用しています。一年に一度、福博の街で一緒に歌える場があることに感謝し、これからも男声合唱を歌い継いでいきたいと思ひます。

西南シャントウール1年間の活動

|             |                            |                   |
|-------------|----------------------------|-------------------|
| 2023. 11.04 | 西南シャントウール第44回定期演奏会         | アクロス福岡シンフォニーホール   |
| 11.11       | 西南学院大学 Home-coming day 出演  | 西南学院大学チャペル        |
| 12.16       | 西南学院グリークラブ第74回定期演奏会賛助出演    | 西南学院大学チャペル        |
| 2024. 1.24  | 2024年度通常総会                 | 西南学院百年館(松緑館)セミナー室 |
| 6.08        | 福岡県合唱連盟福岡支部第79回合唱祭         | 石橋文化センター・文化ホール    |
| 7.05        | 西南学院大学同窓会総会 出演             | ソラリア・ホテル          |
| 11.09       | 創立70周年記念西南シャントウール第45回定期演奏会 | アクロス福岡シンフォニーホール   |

| トップ |    |        |    | セカンド |    |    |    | バリトン   |    |     |    | ベース |    |        |    |     |    |
|-----|----|--------|----|------|----|----|----|--------|----|-----|----|-----|----|--------|----|-----|----|
| 氏名  | 卒年 | 出演ステージ |    |      |    | 氏名 | 卒年 | 出演ステージ |    |     |    | 氏名  | 卒年 | 出演ステージ |    |     |    |
|     |    | I      | II | III  | IV |    |    | I      | II | III | IV |     |    | I      | II | III | IV |

西南シャントウール

|       |    |   |   |   |   |        |    |   |   |   |   |        |    |   |   |   |   |        |    |   |   |   |   |
|-------|----|---|---|---|---|--------|----|---|---|---|---|--------|----|---|---|---|---|--------|----|---|---|---|---|
| 阿部 昌弘 | 57 | ● | ● | ● | ● | 一柳 隆治  | 64 | ● | ● | ● | ● | 篠崎 詔二  | 68 | ● | ● | ● | ● | 木道 昇   | 54 | ● | ● | ● | ● |
| 高木 正志 | 59 | ● | ● | ● | ● | 下田 昭   | 64 | ● | ● | ● | ● | 山下 博英  | 71 | ● | ● | ● | ● | 田中 義信  | 55 | ● | ● | ● | ● |
| 中尾 武史 | 63 | ● | ● | ● | ● | 黒江 量二  | 65 | ● | ● | ● | ● | 小西 眞二  | 71 | ● | ● | ● | ● | 霧 喜廣   | 57 | ● | ● | ● | ● |
| 日高 良公 | 65 | ● | ● | ● | ● | 石橋 信彦  | 66 | ● | ● | ● | ● | 中嶋 恒生  | 73 | ● | ● | ● | ● | 佐藤 忠芳  | 64 | ● | ● | ● | ● |
| 上野 善幸 | 67 | ● | ● | ● | ● | 徳永 武雄  | 68 | ● | ● | ● | ● | *中村 潤  | 73 | ● | ● | ● | ● | 毛利 正明  | 65 | ● | ● | ● | ● |
| 飛松 智明 | 68 | ● | ● | ● | ● | *石松 茂  | 69 | ● | ● | ● | ● | 梶原 博司  | 74 | ● | ● | ● | ● | 武藤 新   | 68 | ● | ● | ● | ● |
| 平塚 郁男 | 69 | ● | ● | ● | ● | 高川 弘幸  | 70 | ● | ● | ● | ● | *高嶋 裕二 | 76 | ● | ● | ● | ● | 八尋 憲二  | 69 | ● | ● | ● | ● |
| 宮城 研二 | 69 | ● | ● | ● | ● | *山元 一憲 | 70 | ● | ● | ● | ● | 宮越 健雄  | 79 | ● | ● | ● | ● | 森 博彦   | 69 | ● | ● | ● | ● |
| 本山 和文 | 69 | ● | ● | ● | ● | 窪田 敏博  | 71 | ● | ● | ● | ● | 伊徳 諭   | 80 | ● | ● | ● | ● | 角 正信   | 70 | ● | ● | ● | ● |
| 坂部 雅夫 | 71 | ● | ● | ● | ● | 山下 悦朗  | 72 | ● | ● | ● | ● | *川原 好治 | 82 | ● | ● | ● | ● | 中垣 登   | 72 | ● | ● | ● | ● |
| 大司 真  | 73 | ● | ● | ● | ● | *砥上 雅壽 | 75 | ● | ● | ● | ● | *藤 寿   | 86 | ● | ● | ● | ● | *岩崎 嘉範 | 80 | ● | ● | ● | ● |
| 杉本 哲也 | 75 | ● | ● | ● | ● | 豊福 純生  | 78 | ● | ● | ● | ● |        |    |   |   |   |   | *宮地 純  | 83 | ● | ● | ● | ● |
| 山口 聡  | 75 | ● | ● | ● | ● |        |    |   |   |   |   |        |    |   |   |   |   | *福田 誠司 | 85 | ● | ● | ● | ● |
|       |    |   |   |   |   |        |    |   |   |   |   |        |    |   |   |   |   | *綾部 武利 | 85 | ● | ● | ● | ● |

西南学院グリークラブOBシンガーズ

|       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |
|-------|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---|---|
| 中竹 茂美 | 83 | ● | ● | ● | ● | 廣崎 公伸 | 73 | ● | ● | ● | ● | 友永 史朗 | 81 | ● | ● | ● | ● | 野間 利博 | 81 | ● | ● | ● | ● |
| 道家 正昇 | 87 | ● | ● | ● | ● | 井手 敏彦 | 83 | ● | ● | ● | ● | 保家 大司 | 86 | ● | ● | ● | ● | 田村 祐一 | 93 | ● | ● | ● | ● |
| 藤島 整  | 88 | ● | ● | ● | ● | 山本 賢二 | 91 | ● | ● | ● | ● | 四季 正次 | 86 | ● | ● | ● | ● | 高田 浩光 | 96 | ● | ● | ● | ● |
| 徳永 正章 | 89 | ● | ● | ● | ● | 篠原 隆盛 | 92 | ● | ● | ● | ● | 八尋 研二 | 86 | ● | ● | ● | ● | 大村 則之 | 99 | ● | ● | ● | ● |
| 田中 幸雄 | 91 | ● | ● | ● | ● | 原 裕一  | 92 | ● | ● | ● | ● | 坂井 克英 | 91 | ● | ● | ● | ● |       |    |   |   |   |   |
| 大山 輝久 | 94 | ● | ● | ● | ● | 田町 大輔 | 94 | ● | ● | ● | ● | 野口龍太郎 | 04 | ● | ● | ● | ● |       |    |   |   |   |   |
| 野田 誠一 | 96 | ● | ● | ● | ● | 日下部一徳 | 96 | ● | ● | ● | ● |       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |
|       |    |   |   |   |   | 前田 英彦 | 96 | ● | ● | ● | ● |       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |

西南学院グリークラブ東京OB会

|       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |
|-------|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---|---|
| 飛松富士夫 | 71 | ● | ● | ● | ● | 霜村 元吾 | 75 | ● | ● | ● | ● | 森 猛   | 62 | ● | ● | ● | ● | 大中 豊  | 82 | ● | ● | ● | ● |
| 堀米 能文 | 78 | ● | ● | ● | ● | 永留 幸明 | 83 | ● | ● | ● | ● | 林 秀郷  | 72 | ● | ● | ● | ● | 古賀 勇治 | 85 | ● | ● | ● | ● |
| 木下 俊彦 | 80 | ● | ● | ● | ● | 古瀬 哲也 | 86 | ● | ● | ● | ● | 松岡比呂史 | 81 | ● | ● | ● | ● | 岡 潔   | 86 | ● | ● | ● | ● |
| 岡田 和夫 | 81 | ● | ● | ● | ● | 原田 郁夫 | 91 | ● | ● | ● | ● | 牛嶋 昭  | 89 | ● | ● | ● | ● | 邑本 真司 | 89 | ● | ● | ● | ● |
| 村上 正道 | 87 | ● | ● | ● | ● | 西田 正則 | 91 | ● | ● | ● | ● | 田中 架扇 | 91 | ● | ● | ● | ● |       |    |   |   |   |   |
| 清田 真二 | 89 | ● | ● | ● | ● | 石丸 貴康 | 93 | ● | ● | ● | ● | 廣瀬 公典 | 92 | ● | ● | ● | ● |       |    |   |   |   |   |
| 角澤 淳行 | 91 | ● | ● | ● | ● | 和合 泰志 | 94 | ● | ● | ● | ● |       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |

西南学院グリークラブ関西OB会

|       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |      |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |
|-------|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---|---|------|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---|---|
| 濱田 和巳 | 86 | ● | ● | ● | ● | 福島 龍則 | 92 | ● | ● | ● | ● | 坂田 浩 | 83 | ● | ● | ● | ● | 中野 裕之 | 81 | ● | ● | ● | ● |
|       |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |      |    |   |   |   |   | 片瀨 恵三 | 92 | ● | ● | ● | ● |

西南学院グリークラブ

|      |    |   |   |   |   |       |    |   |   |   |   |
|------|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---|---|
| 文 壘皓 | 27 | ● | ● | ● | ● | 田代 敏貴 | 25 | ● | ● | ● | ● |
|------|----|---|---|---|---|-------|----|---|---|---|---|

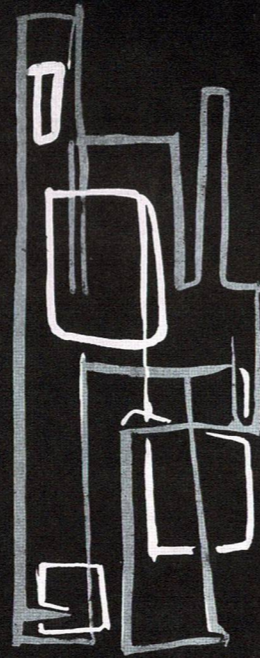
●は登壇ステージを示しています。  
卒年は卒業年度(西暦年次)。

\*は今年度、西南学院グリークラブOBシンガーズ所属。



# 西南シャントウール

## 演奏会



第1回演奏会プログラム表紙(1957.5.24)

# おかげさまで 70周年

大学四年間のグリークラブの生活は我々を益々男声合唱から離れ難くしてしまいました。又毎年毎年メンバーが変わる学生の合唱団では満足すべき演奏ができない。それに福岡にはまだ一般の男声合唱団がない。是非つくらねばと一昨年の卒業生を中心として、西南の名の下にシャントウール(歌い手)達が集いました。私達は難解な曲を歌い、知的優越感に浸るというようなことでなく、自分達の能力に応じた曲を立派に歌いたい(勿論同じ所にいつまでも立ち止まっていることは欲しません)という願いをいつも持って居ります。西南に学んだことのある人、学んでいる人、働いている人が集まり歌い続けています。

(1956.12.22開催"クリスマス・コンサート"のプログラムより)

私たちは、西南学院大学で男声合唱という宝物に出会い、昭和、平成、令和と歌い続けてきましたが、創立から今日まで70年の歴史の中で幾つかの節目における思い出をリレー形式に記述し、西南シャントウール小史としました。

### 「ジュリアン」の夢

1954年、朝鮮戦争が終った翌年、かのマリリン・モンローが在韓米軍訪問の途中、福岡に立ち寄った頃のことである。当時、因幡町には乙藤成美君(54期)の実家の家具店(2019年現在の天神ジュンク堂)があり、その一階、家具倉庫の片隅の一坪位の狭い所にテーブル、棚にはウイスキーの瓶が数本、その上には乙藤君手作りの「ジュリアン」の文字の板が掛けてあり、先輩の豊田佳日子(53期)、乙藤、内海の三人はそこに集まっては夢を語り合っていた。そのうちグリーには同期生が15人もいるし卒業後も合唱を続けよう、ということとなった。先輩の福永陽一郎さん(藤原オペラ指揮者、日本初のプロ男声合唱団「東京コリアーズ」の指揮者)に相談すると「社会人の男声合唱はむずかしいよ」と言われ、合唱連盟の米倉美枝先生からも「OBの男声合唱は大変ですよ」と忠告を受けたが、我々は若気の至り「ヤルしかない。」と皆に呼びかけた。

(注)ジュリアン:スタンダールの小説「赤と黒」の主人公

### シャントウール発足

先輩や現役学生の希望者も入れて40名程になった。早速、発会式ということで、中州の「サッポロビール」で氣勢を上げた。

次に団の名前を、ということになった。当時、米軍の雑誌に海軍のSea Chanters(海の男の歌 Sea Chantyを歌う者、シーシャンターズ)という50人位の男声合唱団の写真が載っていた。また、兄、内海洋一(42期)がシャンソン好きで、フランスにLes Companion de la chanson「シャンソンの友」という小気味よい歌を歌う小編成の男声合唱団があるのを知り、これにしよう!ということので「シャントウール・ドウ・ラ西南」の名前で、発会式をすることにした。(名前はその後「西南シャントウール」と変更した。)

### それは「バーニーズ・ニューヨーク」で始まった

いよいよ練習ということになったが、場所がない。教育会館(2019年現在の岩田屋本館)、養巴幼稚園など転々としていたが、マネージャーの乙藤君が春吉中学校(2019年現在は天神の高級ブティックBURNEYS NEW YORK)を見つけてきた。夜の普通教室でうす暗かったが、会場費の月額千円は魅力的で「流浪の民」のように練習所を渡り歩くこともなく、毎回同じ場所で、ピアノやオルガンはなかったが、音一つで練習を続けていた、アカペラ合唱団の強みであろう。

### 合唱コンクール初登場

グレーのジャケットにみどりの蝶ネクタイ、その洒落たユニフォームのおかげであろうか、その年の鹿児島での合唱コンクール西部本選は森脇憲三氏指揮の歴史ある福岡合唱団を押さえ、堂々の一位となった。小倉で行われた第7回全国大会に出場したが、惜しくも三位であった。翌日の朝日新聞は次の通り報じた。

「一般の部の西南シャントウールは初出場ながら関西代表の中央合唱団と争い、極僅かな差で三位となったのは惜まれる。課題曲、随意曲共に一位の実力と認められた審査員も数名あった。その数は二位の中央合唱団よりも多かった。黒人霊歌De Ole Ark's a-Moverin'をいかにも黒人らしい感情を持って歌ったのが聴衆をひきつけたようだ。」

我が国の合唱界で圧倒的な実力と伝統を有する合唱王国、関西の名門合唱団との比較である、大いに自信となったのは言うまでもない。「音楽にはプロもアマもない、上手と下手があるだけだ」という石丸寛さんの言葉を思い出した。

### 第一回演奏会(1957年)

これに気をよくして独立演奏会をすることになった。客演指揮は先輩の福永さん(前述)で、曲は周知の名曲「月光とピエロ」、男声合唱を知り尽くした福永さんの指揮で完全燃焼した。あの達成感は忘れ難い。

当時は演奏会のポスターを貼るのが許されていて、そのポスターを友人の山田依子氏にタダで描いてもらった。(彼女は今や独立という画壇の大御所である。)更に乙藤君のお母さんに糊を作ってもらい、その糊の缶をぶら下げ、刷毛を持って、二人で夜遅くまで天神界限の電柱や壁にポスターを貼って回った。

### 解散の危機

当時は適当な男声合唱の曲が少なかったが、幸い私はNPOの団体で、ホームステイをする若者達の引率で欧米に行くことが多く、海外旅行の先方で時間が許す限り男声合唱の楽譜を探し、それを演奏会で歌っていた。しかし、発足当時のメンバーの多くは卒業した後の社会人で、北九州在住の者も多く、そう暇があるわけではない、更に転勤するものもあり、メンバーも次第に減り、練習もままならぬ状態になったので、先輩的野恭一さん(53期:第3代会長)の好意で山本文房堂のベビー・オルガンがある小さい美術教室で練習することになった。しかし、相変わらず出席者は10人以下という日が続き、僕はその都度不足のパートを歌うという体たらくで、更に会長の徳永麟之助さん(31期)、的野さんと僕の3人という時もあった。そして出席者は遂に平均5~6人にまでになった。私は意を決して会長の徳永さんに解散する旨報告すると、「一旦解散すれば、再開は困難だから頑張っ続けてるように。」と説得され不承不承、ほそぼそと続けていた。

### 復活、そして「思ひ出」

創立30周年(1984年)以降、定期演奏会を毎年開催することができるようになった。その後、1990年に佐藤宗一君(65期)がマネージャーになった。彼は手を尽くしてメンバーに働きかけ、その甲斐あって出席者も次第に増えてきた。その後、1991年に清水脩の「アイヌのウポポ」、1993年に石井歆の「枯木と太陽の歌」にも挑戦した。それらの難曲を歌うことに内部にはさまざまな異論もあったが、「挑戦的な姿勢は失うべきではない」と演奏会での発表に踏み切った。このように理想と現実のはざままで苦労しながら合唱を続けていた。

そして遂に、1994年の創立40周年記念演奏会を機に多田武彦氏に新曲の委嘱をした。北原白秋の詩による組曲「思ひ出」で、本邦初演であった。この組曲の第一曲『水路』は合唱コンクールの課題曲に採用され、全国の男声合唱団によって広く愛唱されるようになり、多田氏も、佐藤君に電話をしてこられる程大いに喜ばれた。

記述者 内海 敬三(54期)

### 「石寛、初めてで最後」の演奏会(40周年記念)

西南学院グリークラブ戦後復興の立役者である石丸寛氏を客演指揮者として招聘し、1994年11月11日(金)福岡サンパレスで開催。氏は病後であったが、あの独特な、ほとぼしる情熱で「シューベルト」と「黒人霊歌」を熱演した。シャントゥールが氏の指揮で歌った初めてで、最後の演奏会であった。そして4年後の1998年3月、愛称「石かん」さんは颯爽と召天した。

記念ステージでは、前述のように多田武彦氏に委嘱した組曲「思ひ出」が内海敬三氏の指揮で初演された。少人数に泣いていた団員も今や50名になった。

### 「生命の誕生」初演(50周年記念)

2004年12月11日(土)アクロス福岡シンフォニーホールで開催。記念ステージでは、NHKを中心に映画やドラマに活躍中の、女流作曲家・大島ミチル氏に委嘱した組曲「生命の誕生」を内海敬三氏の指揮で初演した。長崎という被爆の地を故郷にもつ大島さんならではの新鮮で壮大な組曲であったが、65頁の楽譜は両手にズッシリ、難易度の高い曲であった。

第II部の「シャントゥール50年の歩み」では、合唱コンクールの課題曲・自由曲をはじめ、創立以来歌い継がれている愛唱歌を馬頭経明氏(59期)の指揮で演奏した。FM福岡パーソナリティBUTCH(永淵幸利)氏(79期)の道案内で、懐かしい思い出を紐解くことができた。

### 「時代」~ニューミュージックと呼ばれた歌たち~

定期演奏会が30回目の節目を迎えた2007年は、団塊世代の一齐退職も世間の話題になった。前年の11月、高校、大学と西南グリーの指揮者で活躍、KBCに就職後は音楽に夢を抱く多くの若者を育て、シャントゥールでも活躍した岸川均氏(61期)が惜しまれながら他界した。

その追悼と、団塊世代メンバーの「あの頃の懐かしいフォークソングを歌いたい」という提案を指揮者の馬頭経明氏がプロデュースし委嘱作品が誕生した。幅広い作風を持つ信長貴富氏の選曲と編曲による「時代」である。「単にノスタルジーを呼び起こすだけでなく、今の時代にも新鮮に響く旋律と歌詞を持った楽曲を選んだつもりです。現在減少傾向にある若い世代の合唱人達を刺激するものになり得たら、という思いもあります」と信長氏。

ピアニスト植村和彦氏の華麗な伴奏に乗せられ、本邦初演の「時代」がフィナーレを飾った。以来、植村先生

とのお付き合いは、練習に、本番にと今日まで続いている。

### 若手OB合唱団の誕生

2009年に行われた西南学院グリークラブ創立90周年記念フェスティバルを機に、我々より一回り若いグリーOBの面々が福岡と東京で合唱活動を開始した。関東が拠点の「西南グリー東京OB合唱団」、福岡県近隣地域が拠点の「西南グリーOBシンガーズ」である。以来、我々も経験してきた道であるが、社会人の男声合唱団運営の難しさに直面しながらも果敢に活動している。

2010年シャントゥールの第33回定期演奏会に、OBシンガーズと東京OB合唱団の有志が賛助出演として初登場、その後も出演を重ね、ステージ構成面でも貴重な存在になってきている。今後も、お互いに切磋琢磨しながら男声合唱の魅力を広めていきたい。

### 中原中也と「コーラス花の早慶戦」

35回目の節目に当たる2012年の定期演奏会は、多田武彦氏に「中也の雨衣」の作曲委嘱と客演指揮での初演を予定していたが、夏過ぎより氏の体調がすぐれず来演が不可能になった。本番は、一年間練習指揮を務めた徳永和彦氏(61期)の指揮で歌うことになった。

練習が始まって間もない3月、「中也の人となり調べに行こう」と湯田温泉にある中原中也記念館を訪ねるバスツアーを企画した。記念館の館長さんも、宿泊したホテル西の雅「常盤」の宮川会長さんも西南OBで奇遇だった。山口の名湯に浸かり夕食は中也に思いを馳せ乍ら地酒を味わい、二次会は評判の女将劇場に出演し久し振りに羽目を外した。山口在住の阪井俊文氏(62期)も合流された。

翌日は広島まで足を延ばした。折しもこの日は「コーラス花の早慶戦in広島」大阪稲門グリークラブと慶應ワグネル関西OB合唱団の公演日だった。午前中は平和公園で祈りを捧げ、お好み焼きに舌鼓を打ち、広島県民センターへ向かった。Gaudeamus、最上川舟歌、月光とピエロ、岬の墓を座席で静かに口ずさんだ。フィナーレは「紺碧の空」「若き血」両校の応援歌で幕を閉じた。

### 「水のいのち」の再演(60周年記念)

2014年12月6日(土)アクロス福岡シンフォニーホールで開催。合唱人なら一度はその曲に触れたことがある作曲家高田三郎氏の愛弟子である須賀敬一氏を招聘し、高田作品の代表曲「典礼聖歌」と「水のいのち」を熱唱した。練習と本番を通し日本語の難しさを思い知らされたが後々の演奏に大変役立った。「水のいのち」は、松岡究(はかる)氏(当時、東京オペラ・プロデュース指揮者)を客演指揮者として招聘した2002年の定期演奏会で初めて出会った曲。愛称キューちゃんの優しい指揮に導かれ全員が達成感を味わい、再演を願っていた曲であった。

記念ステージでは合唱団の還暦祝いを兼ねて、内外の「アルコール名曲集」を徳永和彦氏の指揮で楽しんだ。ヴェルディのオペラ「椿姫」で歌われる「乾杯の歌」では、日頃ボイストレーニングでお世話になっている西日本オペラ協会の久世安俊氏、永瀬くにか氏に、アルフレードとヴィオレッタ役で華を添えていただいた。

記述者 黒江 量二(65期)

### 「東京」で歌いました

2016年10月8日(土) 西南グリー東京OB合唱団と東京演奏会(第一生命ホール)を開催した。

これは、西南学院が創立100周年を迎えた事を記念する特別な演奏会でもあった。

シャントゥール58名、東京在住の西南グリーOB41名が参加した。西南卒業生や合唱団体などで満員の会場では、「岸を洗う 紺碧の波…」の校歌斉唱と、シャフナー学長の挨拶で幕が開き、「聖歌集」、男声合唱とピアノのための「時代」、男声合唱アラカルト(東京OB会:川島清氏(68期)指揮)と演奏が進んだ。フィナーレは1994年に初演した「タダタケ」の男声合唱組曲「思ひ出」で締めくくった。総勢99名の大会場が聴衆席を圧倒した。

東京で演奏会を開く事は、これまでシャントゥールの中で何度となく話題になっていたが、福岡から遠く離れた東京で演奏会を開くのは容易ではなく、「いつの日か」或いは「その内に」となっていた。一方、西南グリー東京OBは、2010年からシャントゥールの福岡での定期演奏会に有志が参加するようになり、徐々に互いの交流が深まり、両者で東京演奏会開催の構想を練り始めていた。コンサートホールの選定、演奏会の広報、チケットの販売、60数名もの宿泊ホテルの確保等々…何から何まで初めての経験であった。準備に2年もの歳月

を要したがよく願が叶い、そして西南学院創立100周年記念事業に相応しいものになった。

演奏会後のパーティーでは、ご列席いただいた指揮者の荒谷俊治氏(この後2020.1.1ご逝去)、作曲家の信長貴富氏、故福永陽一郎氏の令夫人・お孫さんで指揮者の小久保大輔氏の諸先生方よりご講評を頂き、和やかなひと時を味わった。

記述者 徳永 武雄(68期)

### 「タダタケ」を歌う意味 (65周年記念)

2019年9月22日(日)アクロス福岡シンフォニーホールで開催。同年は、西南学院グリークラブが創立100周年を迎える歴史的な年であり、同日に開催された記念フェスティバルの第I部に、創立65周年記念第42回定期演奏会として臨み、OB合唱団の長男として役目を果たした。

当日は台風17号接近というハプニングに見舞われたが、幸いにもI部終了までは難を逃れた。恩師福永陽一郎氏のお孫さん、小久保大輔氏を客演指揮者として招聘した。氏は、オープニングで、グノー作曲の男声合唱とオルガンのための「第2ミサ」、エンディングで、多田武彦作曲の名曲「富士山」を熱演した。世代を超えたOB合唱団の総勢120名を、快刀乱麻の指揮で富士の麓に展開する小久保ワールドに誘った。合同練習の初日、先生が言われた「思い出を歌うだけでなく、人生や音楽の経験を経た皆さんが、今タダタケを歌う意味を一緒に探しましょう」が脳裏をよぎった。

賛助出演のOBシンガーズは、ポップス作品編曲のスペシャリスト信長貴富氏の「若者たち」～昭和歌謡に見る4つの群像～に挑戦。青春時代に聴き覚えのある昭和歌謡の編曲、現代にも通ずる反戦、貧困、希望のメッセージ、井手敏彦氏(83期) 渾身の指揮が聴衆の心に響き、ステージ別の人気では当日一番だった。毛利正明氏(65期)が指揮した懐かしいロシア民謡ステージは、若手のソロをフィーチャーした編曲で、女性のお客様に好評だった。

### 三年越しの定期演奏会

2019年の定期演奏会は西南学院グリークラブ創立100周年事業と同時開催し、歴史の重みを再確認した。心新たに2020年11月14日第43回定期演奏会に向けてスタートした矢先、中国武漢市を中心に発生した新型コロナウイルスのパンデミックで世の中が一変した。

お爺さんたちの健康やストレス発散に最適な合唱活動が三密の最たるものになり、声出しはおろか集まることさえできなくなった。まずはオンラインをフルに活用し、ズーム会議、コロナ情報、音源の提供など、メンバーのモチベーション維持に取組んだ。

開催日も2021年4月18日、2022年11月12日と再々変更したが、2年間の休眠を経て2022年度は年初から練習に取り組んだ。合唱連盟が推奨する感染予防対策を毎回徹底し、練習総時間数も従来の半分程度に抑えたが、当たり前前に集まって仲間と声を合わせられるだけでも有り難かった。

演奏会当日は出演者、スタッフともに抗原検査キットで陰性を確認の上会場入りした。ステージリハーサルと本番ステージだけはマスク無しで歌唱したが、その時の爽快感は一生忘れない。客演指揮者時任康文先生の情熱溢れる指揮に導かれ、ステージと客席が一体となった演奏会になった。

コロナ禍により、音楽の力を再認識し、明日への希望を持てたことが何よりの収穫であった。

記述者 黒江 量二(65期)

### 「青春」とは心の若さ

ユダヤ教のレビであった、サムエル・ウルマンと云う人に「青春」と題する詩がある。この詩によると、青春とは、人生の若い一時期を云うのではない。青春とは好奇心が旺盛で、情熱を傾注する何かを持ち、挑戦的姿勢を持ち続けること、これこそが青春なのだ。だから20代30代に老人がおり、60代、70代に青年がいると云う。これに従うと、シャントウールは、平均年齢70歳超だが今、正に青春集団といえる。

二人の青年(内海敬三氏・乙藤成美氏)の男声合唱への熱い思いからスタートし、その後幾度となく解散の危機に直面した時、「シャントウールの灯を消してはいけない!」と言い続けた、初代会長徳永麟之助氏の情熱は現在まで脈々と受け継がれている。

高齢化で体力が低下していくのは人類みな同じ。しかし心は違う。気持ちの持ちようで千差万別となる。シャントウールはこれ迄もそうであったが、これからも青春を謳歌し、挑戦を続けることだろう。慣れ親しんだ身近な合唱音楽を楽しむとともに、難易度の高い芸術作品も歌いこなす合唱団を目指して。

記述者 佐藤 宗一(65期)

2018年に合唱活動についてのアンケート調査を行った折、80歳代の多くが今後も現状の音楽レベルを維持していきたいと答えましたが、その意欲が今日まで活動を続けてこられた要因だと思います。音楽を愛し、仲間との友情を大切にしてきたメンバーを代表して、70年前の合唱コンクールに出演された方、親子で70年を歌い継いでこられた方に、思い出を振り返っていただきました。

### シャントウールの演奏に思う

名誉指揮者 内海 敬三(1954年卒)

1954年、大学卒業後も合唱を続けようと、数人の先輩に相談した。“大学卒の若者は残業や転勤が多いので、OBの合唱団は無理である”とのことであったが、にも拘らず大丸勤務の野上芳五郎君をマネージャーにして活動を始めた。その後、彼が多忙になったので、天神の家具屋の三男、乙藤成美君に担当を頼んだ。早速ユニフォームを作ることになり、ネクタイの色はスクールカラーの「緑」に決まったが、スーツの色で意見が分かれた。結局、野上君の世話でグレーのフラノに決まったが、バーテンダーのようだと悪口をいう者もいた。

初ステージは当時、馬出の九大医学部講堂で、そのグレーのユニフォームを着て立っていると、幕が開くなり一斉に“おーっ”と声があがった。当時、ステージ衣装は紺か、黒に決まっていた、グレーのユニフォームは斬新であったからであろう。

合唱の基本は発声であるが、長い合唱歴を誇る関西学院グリークラブは柔らかで、重厚なハーモニーで歌っていた。一方、西南学院グリークラブは、福永陽一郎を中心として「オペラ同好会」で歌っていたこともあり、その発声はヴィブラートを気にしないソリストのようで、合唱には適してなかったように思う。福永氏は上京して、日本初のプロの男声合唱団、東京コラリアーズを創った。その後、彼は指揮者、音楽評論家として日本で広く知られるようになった。

西南学院大学グリークラブ(1959年以降「西南学院グリークラブ」に改称)の単独演奏会は戦前に9回開催されていたが、1952年戦後初の“第1回独立演奏会”の客演指揮は石丸寛氏で、賛助出演は進藤梅子女史による『アルト・ラブソディー』であった。石丸氏は、文化学院出身の画家でもあり、その時のポスターもプログラムも石丸氏によるものである。当時、演奏会の際には宣伝用のポスターを作り、街のあちこちに貼っていた。

その後、合唱界の名門、関西学院グリークラブとの交歓演奏会で、彼らの柔らかい、重厚なハーモニーを聴いたり、合唱コンクールの全国大会に出場して、「西南の合唱の発声はいかにあるべきか」は、当時から我々の重要な関心事であった。やはり、一人で低音から高音まで上手に歌うソリストのそれとは異なり、4声部に分かれての深い低音のベースと、それに乗った張りのある力強いテナーであろう。

西南学院校歌に「遙けきかな我が行く道」とある、シャントウールも「遙けき芸術の高み」を目指して進んでいかれることを願っている。

### シャントウールと出会えた幸運

田中 義信(1955年卒)

大学のクリークラブを卒業しても、男声合唱を歌いたいという先輩方の熱意から、1954年、西南シャントウールは誕生しました。

その成り行きを、そばで見聞きしていた我々後輩も、いつのまにか、メンバーに加えられていました。その年の西部合唱コンクール出場がシャントウールの初舞台です。自由曲に、黒人霊歌“Old Ark's A-Moverin'”(方舟はゆれるよ)を歌って第3位に入賞しました。

1957年、念願の第一回独立演奏会が開催されました。私は「月光とピエロ」だけでも歌いたいと、仕事を中断して参加したのを思い出します。

歌う事とは別に、私の中にシャントウールの歴史があります。1994年、創立40周年の定演から十年毎の節目に、プログラム、チラシなどを飾った金色の記念エンブレムのデザインを考え、いくつかのプログラムの表紙のイラストを描いてきた事です。貴重な経験でした。

西南シャントウールと出会えた幸運をきっかけに、ただただ男声合唱の響きを楽しんで、仲間と歌い続けています。そして70周年を迎えます。



創立40周年演奏会表紙

70年の記憶

靄 喜 廣 (1957年卒)

70年経ってしまったんです。でも私にとって西南シャントウールは誰よりも、何よりも長い付き合いになっただけに取り立てて取り上げる記憶はないのですが、草創期は特別だったと思います。

当然ながら私どもも、西南学院グリークラブ卒業後も男声合唱を続け得る事に先輩方への感謝と希望を持った1954年の春でした。

ところがある日突然、上級生から各パートにシャントウール行きの言わば“命令”です。それからというもの週一グリーの練習が終わった後、西新で一個10円の太鼓焼きか、万町電停傍西鉄本社南隣（現在の西通り）の「大福うどん」で一杯15円のかけうどんを腹に入れて、春吉中学（現在の岩田屋本館隣のバーニーズ）での厳しい練習会場へ向かったものでした。

その結果は、自由曲の黒人霊歌“De Ol' Ark's a-Moverin'”を引っ提げての合唱コンクール初参加ながら、一般の部で西部大会（鹿児島）逆転優勝、全国大会（小倉）三位という美酒に酔った事でした。

従って今の私はその全てのプロセスを喜びと感じて居るのかもしれない。

挑戦する姿勢を大切に

第4代指揮者 馬 頭 経 明 (1959年卒)

1954(昭和29)年のある日、当時、西南学院高校の教師で、我々3年B組の組主任であった豊田佳日子先生は我々に博多弁丸出しで「シャントウールと言うとば創ったたい、入れちゃろうか」と言われて、すぐさまお願いし、各パートから一人ずつ、トップ高木正志、セカンド馬頭経明、バリトン松枝康匡、ベース新保亮司（東京芸術大学声楽科卒）の4人が高校生として入団しました。

そしてその年の西部合唱コンクールに出場、高校生は一般の部には入れないところ、当時のマネージャー乙藤成美先輩のマジックにより出場、西南グリーお得意のスピリチュアル“De Ole Ark's a-Moverin'”を歌い鹿児島大会で見事優勝、全国大会へのライセンスを手に入れました。

以来シャントウールは内海敬三先輩を指揮者に毎年、演奏会を開催。1957(昭和32)年第1回には福永陽一郎氏、1994(平成6)年の第17回には、戦後のグリークラブの育ての親石丸 寛氏を指揮者に迎え、なつかしい定期演奏会を開催しました。2002(平成14)年第25回には松岡 究氏をゲストコンダクターに迎え、高田三郎の名曲「水のいのち」を演奏しました。また、2004(平成16)年には大島ミチルさんへの委嘱作品「生命の誕生」、2007(平成19)年には信長貴富さんへの委嘱作品「時代～ニューミュージックと呼ばれた歌たち～」にも携わりましたが、これからも、同じ所にいつまでも立ち止まらず、未だ出会っていない男声合唱曲を求め続けてください。

今日あるのは、大学グリークラブで厳しい練習を、そして楽しいコンサートを続けてきたメンバーの努力のたまものです。

自分が楽器になれる魅力にひかれて

高 木 正 志 ((1959年卒)

西南シャントウールの創立70周年に心から拍手を送ります。そして、本日の記念演奏会に出演する事ができて嬉しい限りです。

私の合唱人生の始まりは76年前に遡ります。西南学院中学校に入学した時の担任が音楽の先生で、音楽の楽しさ、素晴らしさを教えてもらい合唱部に入り、高校でも続けていましたら、3年生の秋に西南シャントウールが西部合唱コンクール（1954年11月3日於：鹿児島市）に出場する事になり、先生が特例でパート別に4人を参加させてくれて先輩たちと歌い凄く感激した思い出が残っています。

一般の部で見事優勝を果たして全国大会の出場が決まり、その喜びを噛みしめながら課題曲は勿論、自由曲で歌ったリズムカルな黒人霊歌を四人肩組んで歌い、街中をスキップしながら宿まで帰った事を今でも鮮明に覚えています！そして、全国大会(11月23日於：小倉市)では3位に入賞しました。

人間は声と言う素晴らしい楽器を持っています。長年にわたり男声合唱を歌ってきましたが、音域の幅広さ、声の響き、ハーモニーの美しさ、そして力強い歌声が会場全体に流れて、聴いているお客様の心に感動と喜びが伝われば最高の幸せを感じます。また、仲間と声を出して歌う事が気分転換、ストレス解消、脳の活性化に繋がり、健康を保てたことで今日まで合唱を続ける事が出来たのだと思います。これからは若い世代が結束して、この歴史ある男声合唱団を持続発展させて欲しいと思います。長年にわたりご来場頂きましたお客様、ファンの方々、本当に有難うございました。

親子で歌い継いできた70年

徳 永 武 雄 ((1968年卒)

私の父である徳永麟之助（2003年没）は西南シャントウール初代会長を32年間務めました。結成当初は勤務先の「出張」や「会議」の度メンバーが歯抜けになり、存続の危機を幾度となく迎えていましたが、的野恭一氏（第3代会長・2022年没）・内海敬三氏（名誉指揮者）をはじめメンバー各位にご協力を頂き今日に至っています。

父にとって大変思い出に残る事の一つは、1988年4月に開催された「徳永麟之助傘寿を祝う記念音楽会」であったと思います。その演奏会には東京から石丸寛氏・福永陽一郎氏・荒谷俊治氏、地元福岡から平島邦夫氏・野口儀氏の方々が指揮をされ祝っていただきました。後に、94歳で逝去する前の元気な時に、たびたびこの思い出が父の口から出てきたものです。

その父の影響を最大に受けたのは兄の徳永和彦（2019年没）です。西南学院グリークラブの創立40周年で学生指揮者を務め、大学卒業後はシャントウールに所属し、内海敬三氏、志渡澤亨氏（2015年没）に次いで1972～73年、1996年～2018年の15年に亘り指揮者を務めました。この間、兄には記憶に残るステージが多々あったと思います。多田武彦作曲「三崎のうた・第二」と「中也の雨衣」の委嘱初演を指揮し、2014年の60周年記念演奏会では客演指揮者須賀敬一先生の「水のいのち」「典礼聖歌」の下振りを務め、そのご縁から、2017年には東海メルクワイアーさん構成・補曲による「ニュームーン」に取組みました。

2016年には西南学院創立100周年記念事業として東京公演が開催されましたが、「聖歌集」「柳川風俗詩第2」を演奏しました。当時は、私も里中健氏（2020年没）とともにマネージャーを担当しており、兄弟で再三にわたり打ち合わせをしたことを思い出します。

父、兄、私、と三者三葉の合唱活動をしてきましたが、西南シャントウールがともに生活の重要な一部であったことを、寄稿願いのおかげで再確認した次第です。

宮 地 純 (1983年卒)

私が入学して数日後「グリーに入部したばいっ！」と父に告げると「はあ？なんで？」と怪訝そうな顔をしながら口元・目元は明らかに緩んでいました。私の父、宮地基次（旧姓靄・54期）は、西南学院大学入学後、縁あってグリークラブに入部、卒業後も男声合唱が忘れられず、同期の皆さんとともに「西南シャントウール」の設立に関わっていたようですが、残念ながら、勤務の都合で当初2～3年は大分市の合唱団で歌っていたと聞いています。

その後、福岡に戻りシャントウールに参加、活動の継続が難しい時期を乗り越えながら、合唱仲間の皆さんに支えていただき一昨年の末まで歌い続けることができました。

練習の合間には、グリークラブとシャントウールを共に過ごした同期のお仲間ご夫婦3組で、国内・海外旅行を楽しんでいました。

私は、親孝行といえるものが、ほとんどできませんでした。ただ、私もグリークラブを卒業後、東京勤務を終えたのち、シャントウールに参加したこと、男声合唱という共通の話題があったこと、また、父はトップテナー、私はベース、立ち位置が対面になりますので練習中だけでなく本番でもお互いの顔を見ながら歌えたことが、もしかしたら親孝行だったのかもしれない。

晩年は体調がすぐれず入院を余儀なくされましたが、枕もとで男声合唱のテープやCDをよく聴いておりました。

今年2月、大好物のチョコレートケーキで92歳の誕生日を祝った直後に他界しましたが、葬儀の際には、シャントウールをはじめグリーOBの皆さんに男声合唱で見送っていただきました。お気に入りのグレーのユニフォームを纏って眠った父も、トップテナーのパートを口ずさみながら旅立ったことと思います。

父にとって男声合唱は、人生の8割を過ごした大切な時間であったことを再認識するとともに、長年にわたり、父とアンサンブルしていただいたことを感謝いたします。

- Christmas Greeting with SEINAN CHANTEURS (西南学院グリークラブと合同) 1956(昭和31年).12.22 ランキンチャペル
  - 1 クリスマス讃美歌
  - 2 コンクール課題曲集
  - 3 First Mass in G (opus.100) Albert H. RoSewig
  - 4 黒人のクリスマス・ソング
  - 5 クリスマス・ソング
  - 6 黒人霊歌
- 西南シャントゥール独立演奏会 (第1回) 1957(昭和32年).05.24 電気ホール
  - 1 五つの愛の歌(c. 福永陽一郎)
  - 2 メンデルスゾーン二重唱曲 (賛助:西南学院児童教育科女声合唱)
  - 3 黒人霊歌集(c. 福永陽一郎)
  - 4 日本民謡集(c. 福永陽一郎)
  - 5 中田喜直作品集(賛助:西南学院児童教育科女声合唱)
  - 6 男声合唱組曲「月光とピエロ」(c. 福永陽一郎)
- Singing Christmas・歌うクリスマス (主催:西部合唱連盟福岡支部) 1957(昭和32年).12.17 電気ホール
  - 1 クリスマス讃美歌(c. 内海敬三)
  - 2 Christmas Carols(c. 内海敬三)
  - 3 西南学院グリークラブ:クリスマス聖歌集(c. 馬頭経明)
  - 4 Christmas Popular Songs(c. 内海敬三)
  - 5 西南学院短期大学児童教育科合唱団 (c. 小島八郎, pf. 猪城信子)
  - 6 Christmas Spirituals(c. 内海敬三)
- 「シンギング・クリスマス」(主催:西部合唱連盟福岡支部) 1958(昭和33年).12.18 電気ホール
  - 1 Christmas Carols (c. 内海敬三)
  - 2 《賛助》板付チャペル・クアイアー (c. 小島八郎) Christmas Anthems
  - 3 Christmas Spirituals (c. 内海敬三)
  - 4 西南学院グリークラブ (c. 徳永和彦) Christmas Mediaeval Sacred Songs
  - 5 Christmas Favorite Songs (c. 内海敬三, pf. 栗山邦豪)
  - 6 クリスマス讃美歌 (c. 内海敬三)
- 西南シャントゥール演奏会「Singing Christmas」(第2回) 1959(昭和34年).12.19 電気ホール
  - 1 クリスマスキャロル (c. 内海敬三)
  - 2 《賛助》福岡合唱団 (c. 小島八郎) オラトリオ「エリヤ」より
  - 3 《賛助》西南学院グリークラブ(c. 岸川 均) 中世クリスマス聖歌
  - 4 雪のファンタジア (c. 内海敬三) (RKBムードハーモニアンズ sop. 三室小枝子)
  - 5 クリスマス黒人霊歌 (c. 内海敬三)
- 西南シャントゥール演奏会「シンギング・クリスマス」 1960(昭和35年).12.20 久留米市公会堂
  - 1 中世聖歌 (西南学院グリークラブ)(c. 阪井俊文)
  - 2 黒人霊歌 (西南学院グリークラブ)(c. 阪井俊文)
  - 3 Popular Songs (Duke Hats Quartet)
  - 4 クリスマス・キャロル (c. 内海敬三)
  - 5 クリスマス・ポピュラーソング (c. 内海敬三)

- 西南シャントゥール演奏会「冬のセレナーデ」(第3回) 1961(昭和36年).12.16 電気ホール
  - 1 北国の唄
  - 2 中世聖歌
  - 3 C. Saint-Saens 作品
  - 4 雪によせて(c. 内海敬三)
  - 5 Christmas Carols
- 西南シャントゥール演奏会 (第4回) 1963(昭和38年).05.11 電気ホール (内容:不詳)
- 西南シャントゥール演奏会「クリスマスコンサート」 1968(昭和43年).12.21 福岡市民会館小ホール (内容:不詳)
- 西南学院グリークラブ創立50周年記念特別演奏会 1969(昭和44年).12.20 電気ホール (創立50周年を記念し、西南学院グリークラブと共催で開催)
- 「ファミリーコンサート」(第5回) 1970(S.45).10.21 福岡市民会館小ホール
  - 1 思い出の「コンクール課題曲」より(c. 志渡澤 亨)
  - 2 黒人霊歌(c. 志渡澤 亨)
  - 3 全員合唱(c. 内海 敬三)
  - 4 《賛助》西南学院短期大学フラウエンコール 清水 脩「女声合唱曲集」(c. 森川和子)
  - 5 愛の歌(c. 志渡澤 亨)
  - 6 童謡集(c. 志渡澤 亨)
- 創立20周年記念演奏会 (第6回) 1974.11.08 福岡市立少年文化会館ホール
  - 1 宗教曲(c. 志渡澤 亨)
  - 2 黒人霊歌(c. 志渡澤 亨)
  - 3 《賛助》コール・エスポワール 女声合唱組曲「愛の風船」(c. 森川和子)
  - 4 男声四重唱・複四重唱(メロ・トーンズ他)
  - 5 男声合唱組曲「月光とピエロ」(c. 志渡澤 亨)
- 創立30周年記念演奏会 (第7回) 1984.10.12 福岡銀行本店大ホール
  - 1 男声合唱組曲「柳河風俗詩」(c. 内海 敬三)
  - 2 シューベルト合唱曲より(c. 内海 敬三)
  - 3 宗教曲集(c. 内海 敬三)
  - 4 《賛助》西南学院大学フラウエンコール プラムスの四つの女声合唱曲(c. 森川和子)
  - 5 イタリア民謡集(c. 内海 敬三)
- '85西南シャントゥール演奏会 (第8回) 1985.10.11 西(現・早良)市民センター
  - 1 ロバート・ショウ男声合唱曲集より(c. 内海 敬三)
  - 2 《賛助》コーロ・ピエーノ ルネッサンス期のイタリア世俗音楽
  - 3 男声合唱組曲「中助の詩から」(c. 内海 敬三)
  - 4 ドイツ男声合唱曲集より(c. 内海 敬三)

- '86 "Back Again" SINGING CHRISTMAS (第9回) 1986.12.06 都久志会館
  - 1 クリスマス・キャロル(c. 内海 敬三)
  - 2 《賛助》西南プリエール Stabat Mater/G. B. Pergoleges(指揮:野口 儀)
  - 3 クリスマス・ポピュラーソング(c. 内海 敬三)
- '87西南シャントゥール演奏会 (第10回) 1987.11.28 福岡銀行本店大ホール
  - 1 「スペイン民謡集」より(c. 内海 敬三)
  - 2 《賛助》西南プリエール(c. 野口 儀)
  - 3 《合同演奏》(c. 内海 敬三)with 西南プリエール Musical「ウエスト・サイド・ストーリー」より
  - 4 第二ミサ曲/Charles Gounod(c. 内海 敬三)
  - 5 黒人霊歌(c. 内海 敬三)
- '88西南シャントゥール演奏会 「ポピュラーコンサート」(第11回) 1988.12.03 福岡銀行本店大ホール
  - 1 クリスマス・キャロル《賛助合同》西南プリエール
  - 2 クリスマス・ポピュラーソング(c. 内海 敬三)
  - 3 思い出のフォークソング(c. 内海 敬三)
  - 4 懐かしのミッチ・ミラー愛唱歌(c. 内海 敬三)
- '89西南シャントゥール演奏会 (第12回) 1989.12.02 福岡銀行本店大ホール
  - 1 クリスマス曲集(c. 内海 敬三)
  - 2 《賛助》女声合唱団「げやき」(c. 宮崎 哲) 「きまぐれエッセイ」
  - 3 荘厳ミサ/アルベール・デュオパ(c. 内海 敬三)
  - 4 男声合唱組曲「緑深き故郷の村にて」(c. 内海 敬三)
- '90西南シャントゥール定期演奏会 (第13回) 1990.11.23 福岡郵便貯金会館ホール
  - 1 清水脩の二つの男声合唱組曲(c. 内海 敬三) 「毛銭の三つの詩」「大手拓次の三つの詩」
  - 2 《賛助》コール・エスポワール(c. 森脇憲三) 「博多まつりの四季」
  - 3 Sound Cocktail with Love(c. 内海 敬三)
- '91西南シャントゥール定期演奏会 (第14回) 1991.11.24 福岡郵便貯金会館ホール
  - 1 男声合唱組曲「樅の木の歌」(c. 内海 敬三)
  - 2 《賛助》エコ-西高宮(c. 行徳睦代) 「四つのイタリアのマドリガル」
  - 3 男声合唱組曲「アイヌのウポポ」(c. 内海 敬三)
  - 4 黒人霊歌(c. 内海 敬三)
- '92西南シャントゥール定期演奏会 (第15回) 1992.11.14 福岡郵便貯金会館ホール
  - 1 ロシア民謡(c. 内海 敬三)
  - 2 《賛助》RKB女声合唱団(c. 尾籠一夫) 秋に謳う名曲ア・ラ・カルト
  - 3 Themes from Movies and Musicals(c. 馬頭 経明)
  - 4 男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」(c. 内海 敬三)
- '93西南シャントゥール定期演奏会 (第16回) 1993.11.13 福岡郵便貯金会館ホール
  - 1 Le Canzoni Italiani(c. 内海 敬三)
  - 2 《賛助》西南学院大学フラウエンコール (c. 佐藤信子) ~ディズニーが贈る夢の世界~
  - 3 《合同演奏》「ロシア民謡」(c. 馬頭 経明) 西南プリエール&西南学院大学フラウエンコール
  - 4 男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」(c. 内海 敬三)

- '94西南シャントゥール創立40周年記念定期演奏会(第17回) 1994.11.11 福岡サンパレス
  - 1 宗教曲 <CANTATE DOMINO>(c. 内海 敬三)
  - 2 シューベルト男声合唱曲集(客演指揮:石丸 寛)
  - 3【委嘱初演】創立40周年記念委嘱作品(c. 内海 敬三) 男声合唱組曲「思い出」(作曲:多田武彦)
  - 4《合同演奏》黒人霊歌(客演指揮:石丸 寛) with 西南学院グリークラブ
- '95西南シャントゥール定期演奏会 (第18回) [徳永麟之助米寿祝賀記念] 1995.11.04 福岡郵便貯金会館ホール
  - 1 男声合唱組曲「東京景物詩」(c. 内海 敬三)
  - 2 Songs of The New World(c. 馬頭 経明)
  - 3《合同演奏》(c. 内海 敬三)with 女声合唱団げやき Songs From Broadway Musicals
  - 4 男声合唱組曲「海鳥の詩」(c. 内海 敬三)
- '96西南シャントゥール定期演奏会 (第19回) 1996.11.02 福岡郵便貯金会館ホール
  - 1 The Student Prince(c. 内海 敬三)
  - 2《賛助》西南学院グリークラブ(c. 嘉屋崇之) 男声合唱組曲「柳河風俗詩」
  - 3【委嘱初演】日本の歌による男声合唱のためのメドレー 「海へ山へ」(編曲:吉田悠作)(c. 徳永 和彦)
  - 4 北欧の歌(c. 内海 敬三)
- '97西南シャントゥール定期演奏会 (第20回) 1997.11.08 アクロス福岡シンフォニーホール
  - 1【委嘱初演】男声合唱組曲「三崎のうた・第二」 (作曲:多田武彦)(c. 徳永 和彦)
  - 2【委嘱初演】男声合唱とハーブのためのアイルランド民謡 (編曲:吉田悠作)(c. 内海 敬三)
  - 3《賛助》西南学院グリークラブ(c. 宮田王恵) 男声合唱組曲「雪国にて」
  - 4 ケルビーニ/レクイエム ニ短調より(c. 内海 敬三)
- 第21回西南シャントゥール定期演奏会 1998.11.23 アクロス福岡シンフォニーホール
  - 1 黒人霊歌 Afro-American Spirituals(c. 内海 敬三)
  - 2 《賛助》西南学院グリークラブ(c. 小野大介) 男声合唱組曲「雪と花火」
  - 3 男声合唱曲「永訣の朝」(c. 内海 敬三)
  - 4 オペラ男声合唱曲(c. 内海 敬三)
- 第22回西南シャントゥール創立45周年記念定期演奏会 1999.11.25 アクロス福岡シンフォニーホール
  - 1 無伴奏男声合唱曲「シューベルトの『鱒』変奏曲」 (c. 馬頭 経明)
  - 2 《賛助》西南学院グリークラブ(c. 龍 毅) 男声合唱組曲「三崎のうた」
  - 3 男声合唱とピアノのための「花に寄せて」(抄)(c.内海 敬三)
  - 4 《合同演奏》男声合唱組曲「月光とピエロ」(c. 内海 敬三)
- 第23回西南シャントゥール定期演奏会 2000.11.19 アクロス福岡シンフォニーホール
  - 1 男声合唱組曲「光のうた」(c. 内海 敬三)
  - 2 《賛助》佳の会(c. 栗田哲海) 「イタリア歌曲集」より
  - 3【委嘱初演】男声合唱曲「日本の歌メドレー」 (編曲:宇野正寛)(c. 徳永 和彦)
  - 4 男声合唱組曲「緑深き故郷の村で」(c. 内海 敬三)

- 第24回西南シャントゥール定期演奏会  
2001.12.01 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 男声合唱とピアノのための「AVE MARIA」(c. 内海 敬三)  
2 《賛助》女声合唱団グリーンヒルコール  
& フラウエンコール南(c. 大庭尋子)  
「日本の抒情をたずねて」  
3 SONGS OF AMERICA (c. 馬頭 経明)  
4 G. マーラー「さすらう若人の歌」(c. 内海 敬三)
- 第25回西南シャントゥール定期演奏会  
2002.11.30 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」(c. 徳永 和彦)  
2 《賛助》コール・エスポワール(c. 古川みゆき)  
女声合唱曲集「もう一つ心を」・葡萄の歌  
3 黒人霊歌(c. 徳永 和彦)  
4 男声合唱組曲「水のいのち」(客演指揮:松岡 究)
- 第26回西南シャントゥール定期演奏会  
2003.11.30 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 宗教曲 <故・徳永麟之助会長に捧げます>(c. 馬頭 経明)  
2 男声合唱組曲「柳河風俗詩・第二」(c. 徳永 和彦)  
3 男声合唱曲集「空に、樹に…」(c. 馬頭 経明)  
4 It's A Wonderful Christmas (クリスマス曲集)  
(c. 馬頭 経明)
- 第27回西南シャントゥール創立50周年記念定期演奏会  
2004.12.11 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 無伴奏男声合唱による日本名歌集「ノスタルジア」より  
(c. 徳永 和彦)  
2 【委嘱初演】男声合唱とピアノによる「生命の誕生」  
(作曲:大島ミチル)(c. 内海 敬三)  
3 西南シャントゥール50年の歩み(ナビゲーター: BUTCH)  
(c. 内海 敬三・馬頭 経明)
- 第28回西南シャントゥール定期演奏会  
2005.12.11 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 S. C. Foster's Album (c. 馬頭 経明)  
2 男声合唱組曲「山に祈る」(c. 徳永 和彦)  
3 九州の唄・沖縄の唄(c. 馬頭 経明)  
4 Yultide Favorites クリスマス曲集(OB参加)  
(c. 徳永 和彦)
- 第29回西南シャントゥール定期演奏会  
2006.12.02 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 「智恵子抄」より(c. 佐藤 棟也)  
2 《賛助》沖縄男声合唱団 沖縄の歌 (c. 宮城 敏)  
3 男声合唱組曲「心の四季」(c. 徳永 和彦)  
4 《合同演奏》 Afro-American Spirituals  
(c. 宮城 敏・徳永 和彦)
- 第30回西南シャントゥール定期演奏会  
2007.12.08 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 フランスの詩による男声合唱曲集「月下の一群・1」  
(c. 徳永 和彦)  
2 ア・カペラの煌めき(イギリス民謡集)(c. 佐藤 棟也)  
3 《賛助》NHK福岡児童合唱団 MIRAI(c. 大庭尋子)  
「7つのフランスの子供の歌」  
《合同演奏》翼をください、赤鬼と青鬼のタンゴ  
4 【第30回記念・委嘱初演】(c. 馬頭 経明)  
「時代～ニューミュージックと呼ばれた歌たち～」  
(編曲:信長貴富)

- 第31回西南シャントゥール定期演奏会  
2008.12.06 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 北原白秋・山田耕祐による「日本抒情歌曲集」(c. 徳永 和彦)  
2 《賛助》RKB女声合唱団(c. 久世安俊) 「アラカルト」  
3 男声合唱曲「島よ」(c. 徳永 和彦)  
4 from BROADWAY 「ブロードウェイによこそ」  
(c. 佐藤 棟也)
- 第32回西南シャントゥール定期演奏会(創立55周年)  
2009.11.08 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 ロシア民謡集～石丸寛編曲による(c. 佐藤 棟也)  
2 《賛助》女声合唱団グリーンヒルコール  
& フラウエンコール南(c. 大庭尋子)  
～歌い続ける友へ そして生き続ける地球へ 愛を込めて～  
3 男声合唱とピアノのための「初心のうた」(客演指揮:久世安俊)  
4 男声合唱組曲「月光とピエロ」(c. 徳永 和彦)
- 第33回西南シャントゥール定期演奏会  
2010.12.04 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 男声合唱とピアノのための「新しい歌」(c. 高嶋裕二)  
2 《賛助》西南グリーOBメンバーズ'80～のための  
ミュージックストーリー (c. 井手敏彦)  
「海・その愛」～古今東西・舟歌メドレー～  
3 Jazz & Standard の贈り物(c. 佐藤 棟也)  
4 男声合唱組曲「富士山」(c. 徳永 和彦)
- 第34回西南シャントゥール定期演奏会  
2011.12.03 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 男声合唱のための「典礼聖歌」(c. 徳永 和彦)  
～ 東日本大震災被害者及び被災地に捧ぐ～  
(オルガン:木島美紗子)  
2 《賛助出演》コーロ・赤坂 (c. 池田正子)  
～ 心に寄り添うことばと音楽～  
3 Le Canzoni Itaiani (c. 佐藤 棟也)  
4 男声合唱組曲「沙羅」(c. 徳永 和彦)
- 第35回西南シャントゥール定期演奏会  
2012.12.08 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 Afro-American Spirituals (c. 高嶋裕二)  
2 歌は世につれ、世は歌につれ(c. 佐藤 棟也)  
3 【委嘱初演】男声合唱組曲「中世の雨衣」  
(作曲:多田武彦)(c. 徳永 和彦)  
4 日本民謡(c. 徳永 和彦)
- 第36回西南シャントゥール定期演奏会  
2013.11.02 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 ケルビーニ「レクイエム・ニ短調」～(c. 徳永 和彦)  
2 《賛助》NHK福岡児童合唱団MIRAI(c. 大庭尋子)  
「雨情幻想」～・僕のドラゴン  
《合同演奏》 とてもシャン!きもちシャン!、花は咲く  
3 男声合唱組曲「旅」(c. 佐藤 棟也)  
4 Robert Shaw Chorele Album (c. 徳永 和彦)
- 第37回西南シャントゥール創立60周年記念演奏会  
2014.12.06 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 男声合唱のための「典礼聖歌」  
(客演指揮:須賀敬一 オルガン:木島美紗子)  
2 《賛助》西南グリーOBメンバーズ'80～(c. 井手敏彦)  
男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」  
3 男声合唱組曲「水のいのち」  
(客演指揮:須賀敬一 ピアノ:木島美紗子)  
4 乾杯!ー男声合唱のための酒の歌ー(c. 徳永 和彦)

- 第38回西南シャントゥール定期演奏会  
2015.12.06 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 Tosti Melodie Album ～トスティ歌曲集～ (c. 佐藤 棟也)  
2 《賛助》北九州アカデミー少年少女合唱団(c.n坂田正克)  
3 男声合唱組曲「雨」(初版譜) (c. 徳永 和彦)  
4 男声合唱版「唱歌の四季」(c. 徳永 和彦、pf.植村和彦)
- 西南学院創立100周年記念 西南シャントゥール東京演奏会  
《賛助・合同》東京OB会 2016.10.08 第一生命ホール
- 第39回西南シャントゥール定期演奏会  
2016.12.06 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 聖歌集 《合同》(c. 徳永 和彦)  
2 《賛助》西南グリーOBメンバーズ'80～(c. 井手敏彦)  
黒人霊歌集 -Afro-American Spirituals-  
3 男声合唱とピアノのための「時代」(c. 佐藤 棟也)  
4 男声合唱組曲「思ひ出」(「柳河風俗詩・第二」)(c. 徳永 和彦)
- 第40回西南シャントゥール定期演奏会  
2017.12.06 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 男声合唱とピアノのための「啄木短歌集」(c. 徳永 和彦)  
2 《賛助》西南グリーOBメンバーズ'80～(c. 井手敏彦)  
男声合唱組曲「吹雪の街を」  
3 男声合唱組曲「ニュー・ムーン」(c. 徳永 和彦)  
4 クリスマス・キャロル集 (c. 佐藤 棟也)
- 第41回西南シャントゥール定期演奏会  
2018.12.06 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 C.S. Foster's Album ～フォスター・メドレー～ (c. 徳永 和彦)  
2 《賛助》西南グリーOBメンバーズ(c. 井手敏彦)  
男声合唱組曲「学生王子」  
3 男声合唱組曲「柳河風俗詩」【多田武彦追悼】(c. 毛利正明)  
4 男声合唱版「日本の笛」(c. 徳永 和彦)

- 第42回西南シャントゥール定期演奏会(創立65周年)  
2019.09.22 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 男声合唱とオルガンのための「第二ミサ」より  
(客演指揮:小久保大輔)  
2 《賛助》西南グリーOBシンガーズ(c. 井手敏彦)  
男声合唱「若者たち」～昭和歌謡に見る4つの群像～  
3 ロシア民謡集 (c. 毛利正明)  
4 男声合唱組曲「富士山」(客演指揮:小久保大輔)
- 第43回西南シャントゥール定期演奏会(創立68周年)  
2022.11.12 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 Sea Shanties (c. 高嶋裕二)  
2 男声合唱による10のメルヘン『愛する歌』  
(客演指揮:時任康文)  
3 《賛助》西南グリーOBシンガーズ(c. 井手敏彦)  
男声合唱のためのヒットメドレー『SORA』  
4 男声合唱曲『永訣の朝』(客演指揮:時任康文)
- 第44回西南シャントゥール定期演奏会(創立69周年)  
2023.11.04 アクロス福岡シンフォニーホール  
1 鎮魂と再生への祈り ～信長貴富 男声合唱曲集～  
(c. 高嶋裕二)  
2 《賛助》西南グリーOBシンガーズ  
男声合唱組曲「草野心平の詩から」(c. 井手敏彦)  
3 男声合唱組曲『終わりのない歌』(客演指揮:久世安俊)  
4 グリークラブ・アルバム『日本民謡・歌謡をたずねて』  
(c. 高嶋裕二)

### 「チケット先行予約会員システム」のご案内

おかげさまで、2014年の定期演奏会アンケートで頂きましたご意見を参考にして取り組みました「先行予約会員システム」も、多くのお客さまにご利用を頂きまして10年が経過いたしました。創立70周年を機に、親切、丁寧なサービスを充実させてまいりますので、今後ともご利用頂きますようお願い申し上げます。

#### ■会員登録(登録料無料)の方法

- ・定期演奏会のアンケートに、演奏会ご案内希望の郵送先をご記入ください。
- ・先行予約担当宛に FAX またはお電話でお申込みください。

#### ■会員の特典

- ・一般販売に先がけてご予約できます。
- ・割引価格(1,800円)でご購入いただけます。(一般前売:2,000円、当日:2,200円)
- ・電話・FAX・郵送・公式ホームページでご予約できます。
- ・座席を選択できます。
- ・チケットは郵送いたします(郵送料無料)。
- ・代金は後払いです(ゆうちょ銀行 払込手数料不要)

#### ■既にご利用頂いておりますお客さまには引き続きご案内を申し上げます。

先行予約販売担当 砥上(トガミ) 雅寿

電話 090-9575-0688

FAX 092-925-9148

〒818-0053 筑紫野市天拝坂4-2-11

予告

# 西南シャントウール 第46回定期演奏会

2025年11月1日(土) ● アクロス福岡シンフォニーホール



## 江副整形外科クリニック

院長 江副正光

〒814-0161  
福岡県福岡市早良区飯倉6丁目 24-23  
TEL 092-864-2323  
FAX 092-862-4896



## シーエススチール株式会社 CS-steel CO.,LTD

取締役相談役 松原照明  
(西南学院 理事)

□ 本社 福岡県糟屋郡須恵町植木 157-2 〒811-2112  
TEL 092-935-9950 FAX 092-935-9951  
<http://www.cs-steel.com>  
E-mail: [css@cs-steel.com](mailto:css@cs-steel.com)



不動産の賃貸や管理・活用にかかわる幅広いサービスを、  
お客様のニーズに合わせて提供しています。



## 株式会社エイブル 井尻店

〒811-1302  
福岡市南区井尻 3-11-14  
TEL 092-591-5677

輝く今を、キレイに残す写真スタジオ

# TOKUDA PHOTO STUDIO

SINCE 1933

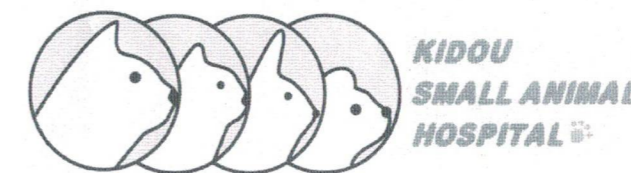


筑紫野市二日市北1丁目3-3 TEL (092)922-6464 <https://www.tokuda-photo.co.jp/>



福岡市城南区  
田島5-4-18

☎ 092-862-1222



「遺言書作成・相続手続・遺産分割」「在留許可申請・帰化申請・外国人による会社設立」  
「合同会社設立・一般社団法人設立」「任意後見契約・法定後見」などの相談業務  
「建設業許可申請・経営事項審査申請」「内容証明郵便・公正証書作成・法律文書作成」

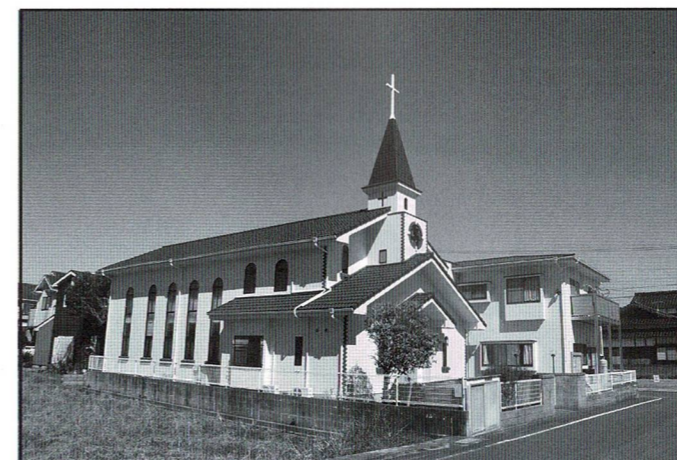


Certified Administrative Procedures Legal Specialists  
OFFICE YASUNAGA

〒818-0138 福岡県太宰府市吉松4-3-8

## 行政書士 安永事務所

Tel 092-555-3241 Mail [director@office.yasunaga.org](mailto:director@office.yasunaga.org)  
Fax 092-403-4510 Web <https://office.yasunaga.org/>



## 日本バプテスト連盟 那珂川キリスト教会

福岡県那珂川市恵子3-3-5  
<https://nakagawachurch.net/>  
牧師 藤 寿 (86期生)

- ◆ 絵画用品    ◆ 額縁    ◆ グラフィック    ◆ 版画用品
- ◆ 彫塑陶芸用品    ◆ 建築模型用品    ◆ アートスクール

## 株式会社 山本文房堂

福岡市中央区大名2丁目4-32 〒810-0041 ☎092(751)4342 Fax 092(714)0610  
URL <http://www.yamabum.com> E-mail [nike@yamabum.com](mailto:nike@yamabum.com)

介護付有料老人ホーム    住宅型有料老人ホーム    住宅型有料老人ホーム    介護付有料老人ホーム    介護付有料老人ホーム  
生活倶楽部ウイズ長丘    生活倶楽部ウイズ長丘II    生活倶楽部ウイズ長丘III    生活倶楽部ウイズ南片江    生活倶楽部ウイズ長尾



福岡市南区長丘3-24-20    福岡市南区長丘3-21-5    福岡市南区長丘3-4-13    福岡市城南区南片江6-25-1    福岡市城南区長尾2-14-31  
Tel 092-562-9555    Tel 092-554-8865    Tel 092-541-8800    Tel 092-866-0065    Tel 092-534-7700



**ウイズグループ**

<https://www.with-g.com/> ウイズグループホームページ



## 株式会社 ひまわり調剤薬局

代表取締役 菊竹章剛  
(グリーンクラブ73期)

久留米市西町 241-15  
TEL 0942-38-0072

売る時、買う時、お任せ下さい。  
誠心誠意でお手伝いさせていただきます。



日本野鳥の会会員

### 中垣不動産

福岡県知事(6)第14016号  
〒818-0121 太宰府市青山3-27-2  
☎ 092-918-6487  
Email [nakagakihudousan@gmail.com](mailto:nakagakihudousan@gmail.com)



# 表面処理業界と共に歩む石田産業

ISHIDA の最大の商品は、心のゆきとどいたサービスとアフターフォローです。

## <sup>【輝き】</sup> Brightness 石田産業株式会社

ISO14001 認証取得

- 表面処理薬品及び金属
- 表面処理装置及び検査機
- 化学工業薬品販売
- 貴金属・塩類販売
- 貴金属・非鉄スクラップ回収
- 公害機器装置の販売
- 産業廃棄物処理
- 塩化第二鉄液リサイクル事業

本社 〒812-0013  
福岡市博多区博多駅東1丁目10-35-2F  
TEL 092(411)2677(代) FAX 092(411)2644

熊本営業所 〒869-1101  
熊本県菊池郡菊陽町津久礼2603-1  
TEL 096(232)4866 FAX 096(232)4879

南方営業所 〒822-0006  
福岡県直方市大字上境字黍田2721-3  
TEL 0949(22)3846 FAX 0949(22)3847

## (博多) 世界最高峰 の技術レベルを求められる 新幹線車両のコーティング



日本が世界に誇る新幹線。その新幹線に携わって  
技術を役立てているメッキ会社は全国でたった3社。  
その中の1社として日々研鑽に努めています。

### 福岡メッキ技研工業株式会社

代表取締役会長 梶原博司  
本社工場 〒812-0006 福岡市博多区上牟田1丁目2番6号  
TEL (092)411-3107 FAX (092)411-3416  
<http://www.f-mekki.co.jp> E-mail [kajihara@f-mekki.co.jp](mailto:kajihara@f-mekki.co.jp)



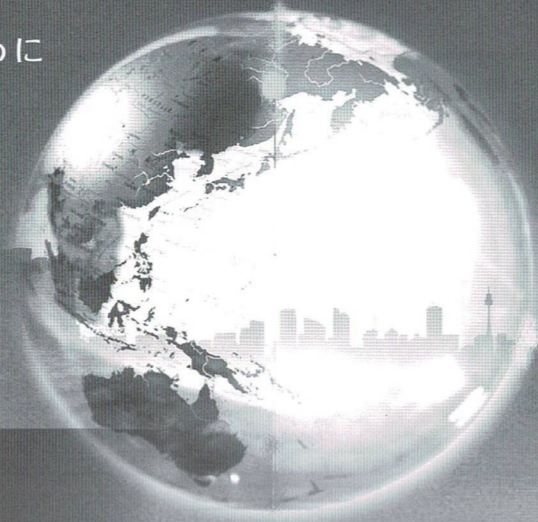
株式会社 **三和ホーム**

〒812-0888 福岡県福岡市博多区板付4-11-6    ☎ 0120-77-5559  
外装・内装・外構工事全般    塗装工事・瓦、雨どい工事  
水廻り工事・シロアリ駆除    エクステリア



# タイキ薬品工業は、

人と自然とが上手に暮らしていくために  
幅広い工業薬品を取揃え、  
価値ある製品を提供します。



## 業務内容

- 工業薬品の製造及び販売
- 工業薬品のOEM製造受託
- リサイクル事業
- 廃棄物処理業
- プラント及び関連装置の販売
- 土木資材の販売

**起** **タイキ薬品工業株式会社** 〒812-0055 福岡市東区東浜1丁目9番4号  
TEL 092-641-5736 FAX 092-641-4440 <http://www.taiki-y.co.jp>

## 郷土九州に豊かな生活環境を おかげさまで130周年



西南学院大学旧体育館

西南学院大学学術研究所

西南学院大学旧図書館

西南学院旧1号館

西南学院大学2号館

西南学院100周年記念館



**九州建設株式会社**

代表取締役社長 井山 裕

創業明治27年  
本社: 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目8番31号  
TEL (092) 461-1100 FAX (092) 461-1400  
事業所: 長崎・佐世保・筑豊・佐賀・熊本・大分  
ホームページ URL <https://www.q-shu.co.jp>



仕出し・パーティー料理

## 株式会社 島川本店

代表取締役社長 久保 陽輔

〒811-1313 福岡市南区日佐2丁目2番11号

TEL: 092-589-3737 FREE 0120-330-482

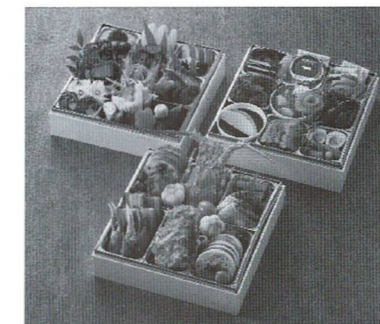
FAX: 092-589-3738

E-mail: [info@shimakawa-honten.co.jp](mailto:info@shimakawa-honten.co.jp)

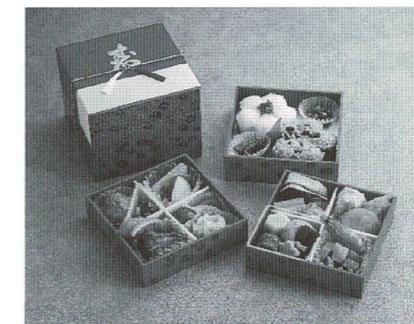
Twitter: @Shimakawahonten



HP



2025年 おせち三段重

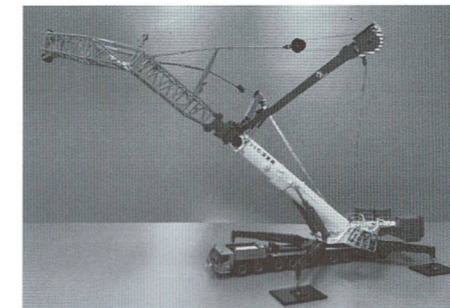


友禅三段

## ミニチュアカーで楽しむ はたらくクルマの世界

はたらくクルマの魅力は、なんといっても、その重量感と力強さにあります。  
ミニチュアカーはその雰囲気を楽しみ、実際に持ってみるとズシリと重く、ハデさはないけれど実車に迫るリアルさが見逃せません。そこには子供を引き付けるだけでなく、本物志向の大人を満足させるだけのクオリティと奥深さがあります。コレクティブな商品を扱う通販専門店の下記へお尋ねください

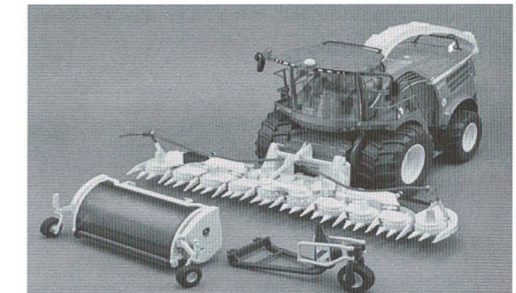
クレーン・トラック・建設機械の  
ミニチュアカー専門ショップ



**Model Truck  
Factory**

モデル トラック ファクトリー  
<http://www.mt-factory.com>  
メ-ル [info@mt-factory.com](mailto:info@mt-factory.com)  
〒818-0059 福岡県筑紫野市塔原東3-13-1

トラクターなど農業機械の  
ミニチュアカー専門ショップ



Farming Machine Miniatures/Boom Boom Garage  
**ファームマシンミニチュア  
ブームブームガレージ**

Boom Boom Garage  
<http://www.bb-garage.com>  
メ-ル [info@bb-garage.com](mailto:info@bb-garage.com)  
〒818-0137 福岡県太宰府市青葉台3-21-16

## 一生涯のパートナー「お客さま第一主義」

思い描いた人生を実現していくために  
 何かを乗り越えようとしている人、何かに挑もうとしている人がいる。  
 第一生命グループは、その新たな一歩の支えとなり  
 希望に満ちた世界を切りひらいていく  
 一生涯のパートナーでありたい。  
 さあ、一緒に。未来へ。

# 第一生命保険株式会社

## 福岡総合支社

〒812-0039 福岡県福岡市博多区冷泉町5-35  
 TEL 050-3781-6641 (代) 受付時間 平日午前9時～午後5時  
 第一生命ホームページ <https://www.dai-ichi-life.co.jp/>



まごころと、安心と、信頼と。  
 一般社団法人  
**福岡県社会保険医療協会**

理事長 瓦林 達比古

福岡県内に6病院〔総病床数1,204床〕及び介護医療院〔37床〕、介護老人保健施設〔入所定員100名〕を含む12介護事業所を運営する一般社団法人です。  
 真心のこもった医療を通して、地域や患者さんの信頼に応え、大きな安心感を育むために、急性期から慢性期、在宅まで一貫した医療・介護・教育を提供しています。

### 〔運営施設〕

社会保険大牟田天領病院  
 社会保険田川病院  
 社会保険直方病院  
 社会保険稲築病院  
 社会保険仲原病院  
 社会保険二瀬病院

社会保険稲築病院介護医療院いなつき  
 社会保険二瀬病院介護老人保健施設

〒810 0001  
 福岡市中央区天神三丁目7番31号 N天神ビル2階  
 電話 (092) 741-9120 FAX(092) 751-5910  
 URL <http://iryokyokai.or.jp/>

Quality&Service  
**キューズホーム**

新築・建替え  
 リフォーム  
 リノベーション



お部屋さがしは

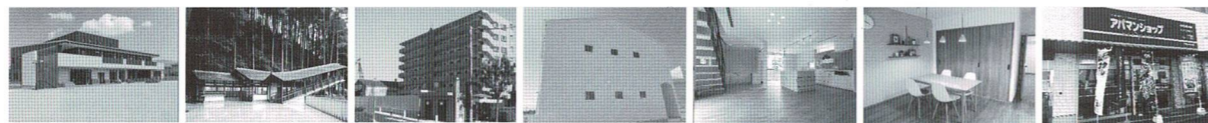
Dramatic Communication  
**アパマンショップ**  
 NETWORK

APAMAN  
 柏屋空港東店  
 (0120)  
 111-415

柏屋殖産株式会社

## 総合建設業

物流倉庫・店舗  
 賃貸アパート  
 賃貸マンション



**粕屋殖産株式会社**

〒811-2304

福岡県糟屋郡粕屋町大字仲原1775-5 TEL092-621-1331



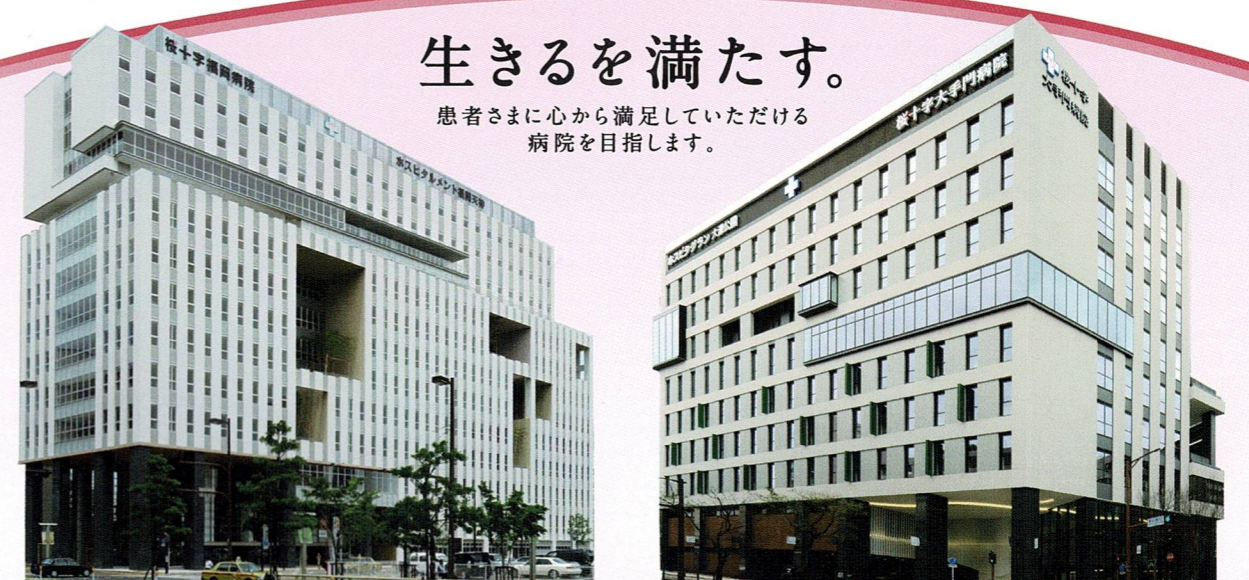
桜十字福岡病院



桜十字大手門病院

生きるを満たす。

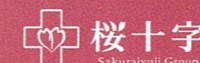
患者さまに心から満足していただける  
 病院を目指します。



桜十字福岡病院  
**092-791-1100**  
 福岡市中央区渡辺通3丁目5-11



桜十字大手門病院  
**092-753-3700**  
 福岡市中央区大手門3丁目15-1

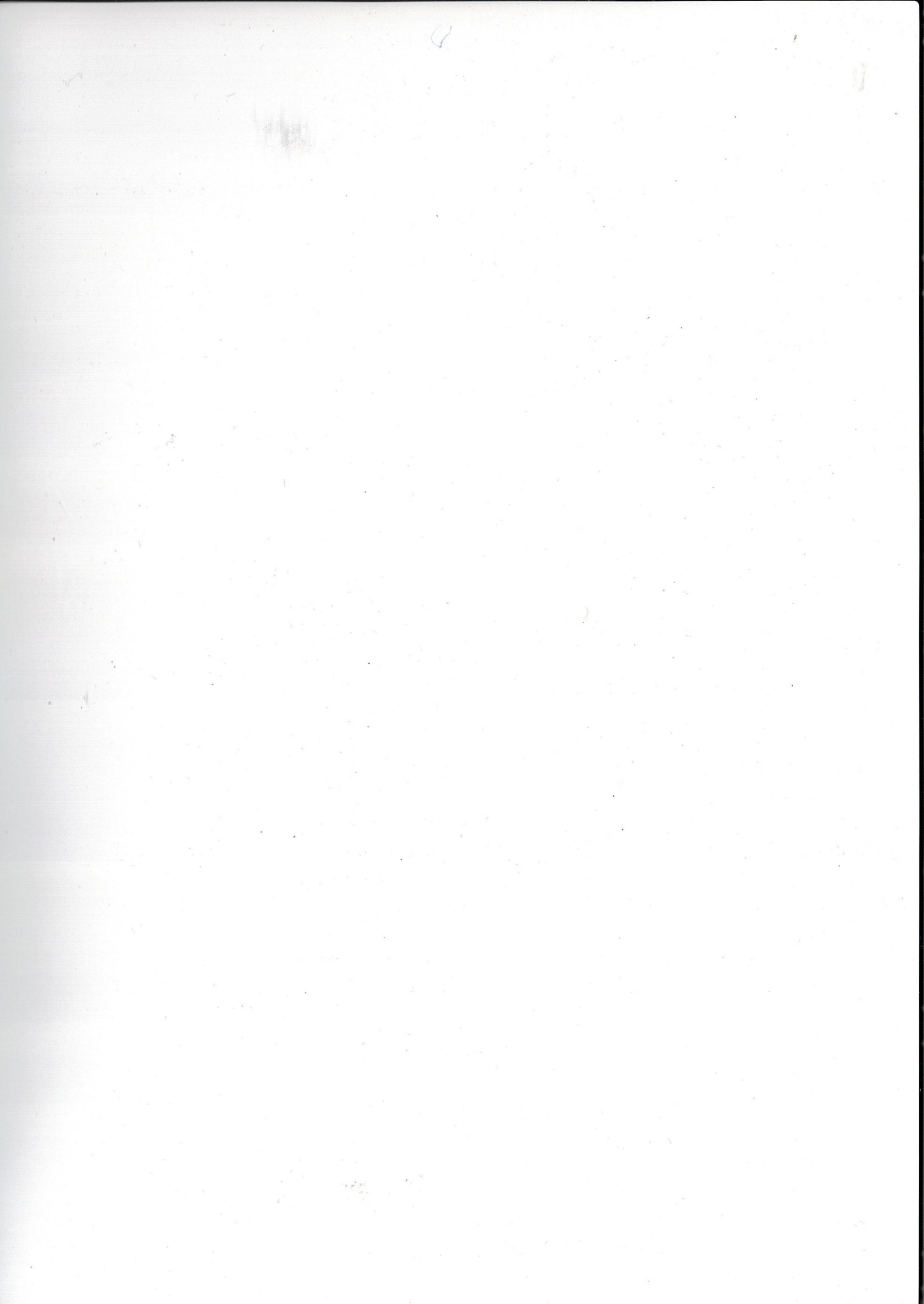


介護老人保健施設  
 レハビリス桜十字

ホスピタルメント福岡天神

住宅型有料老人ホーム

ホスピタルメント桜十字博多 ホスピタグラン大濠公園



# 銀行は、 人だよ。

銀行は、  
いっつの人生で  
つなぐまじわり  
でみんなつながる。

人の「ココロ」の数だけ、  
幸せの「コタエ」が  
違う世界で、



ココロがある。コタエがある。  
西日本シテイ銀行

西新町支店 福岡市早良区西新3-3-2 TEL 092-841-1111

